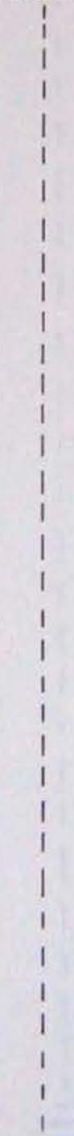
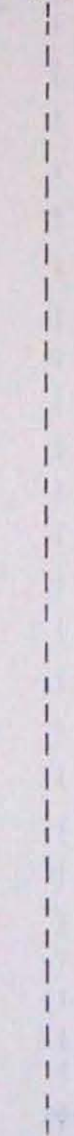
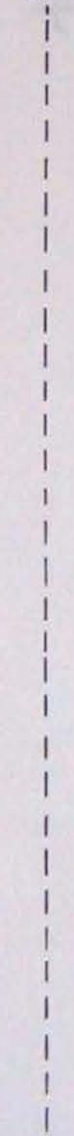
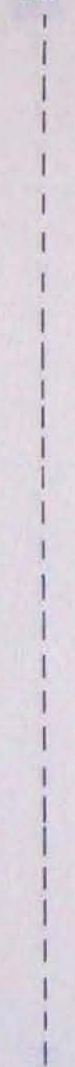
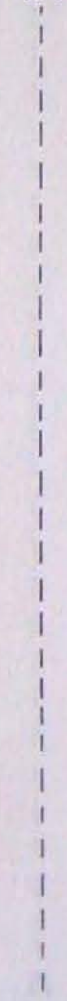
神道夢想流杖術圖解

日本武術研究所所長 藤田西湖著

神道夢想流杖術圖解

日本武術研究所

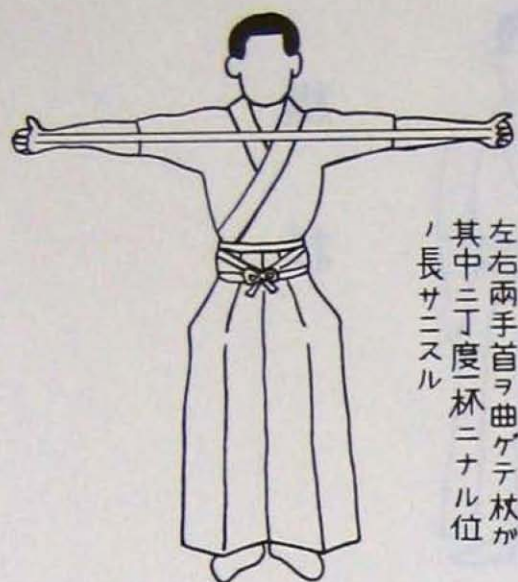
神道夢想流杖術圖解

基本十二手

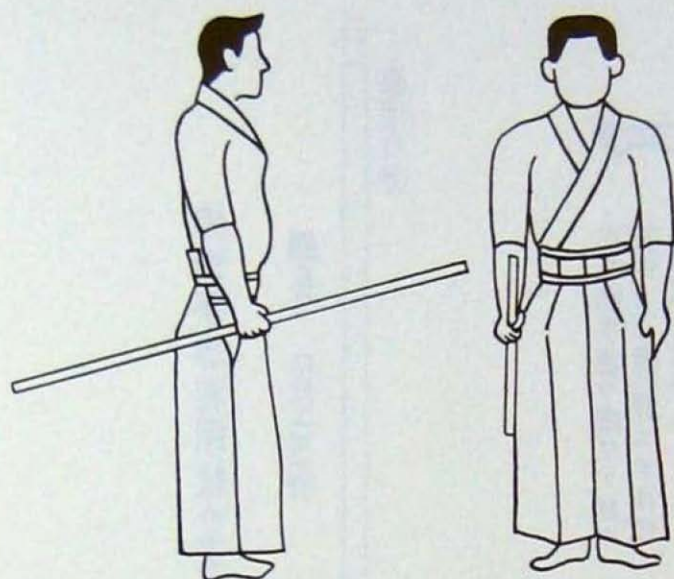
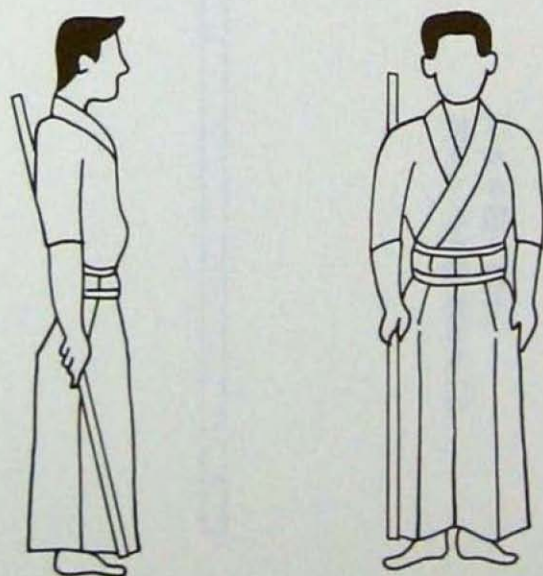
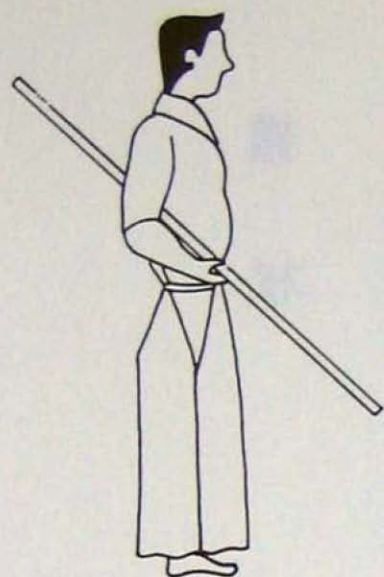
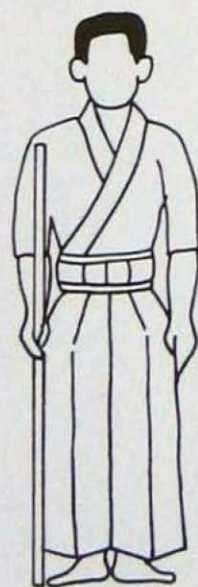
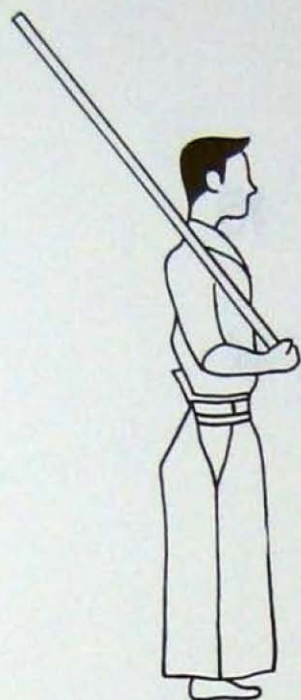
神道夢想流杖術は今から凡そ三百数十年以前　天眞正傳神道流の祖飯篠山城守家直より七代目夢想權之助勝吉によつて創始されたものである　　　勝吉は神道流剣術の達人であつたが　江戸に於て當時の剣豪宮本武藏と試合し　その二天流十字の構にかゝつて押す事も引く事も出來ず　遂に敗れた　勝吉はこの二天流十字の構を打破る工夫に専念し諸國を遍歴したが　後筑前の國︵今の福岡縣筑紫郡︶に至り靈峰寶満山に登り　玉依姫命を祀る竈門神社に祈願参籠すること三七日満願の夜至誠神に通じたか　夢に一童子現れ﹁丸木を以て水月を知れ﹂との神詫があつた　勝吉この丸木と水月の神詫を體して種々工夫の結果　終に三尺二寸の太刀を一尺長くして四尺二寸直径八分の樫の丸木を作り　これを武器とする杖術を編み出し　遂

に宮本武藏の十字の構へを破つたと傳へられる。
これが神道夢想流杖術である
爾來黒田藩に於てこの勝吉を師範と仰ぎ十数人の師範家を起し盛んに指南せしめたが藩外不出の御留武術として三百年來傳へ來たと云ふ

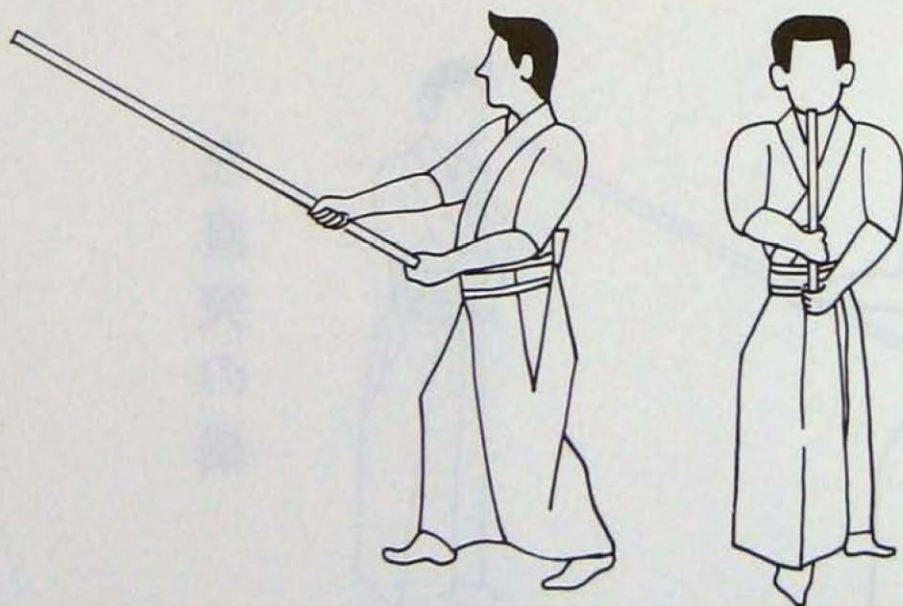
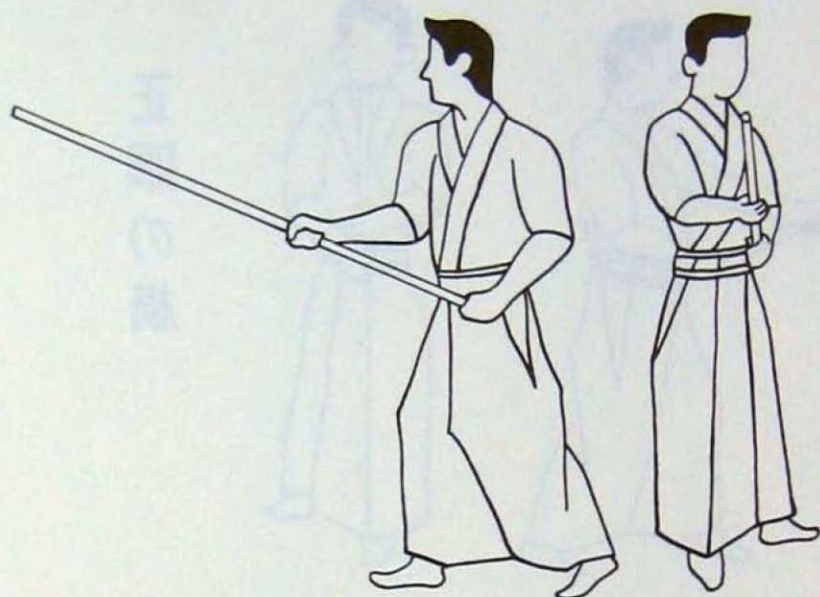
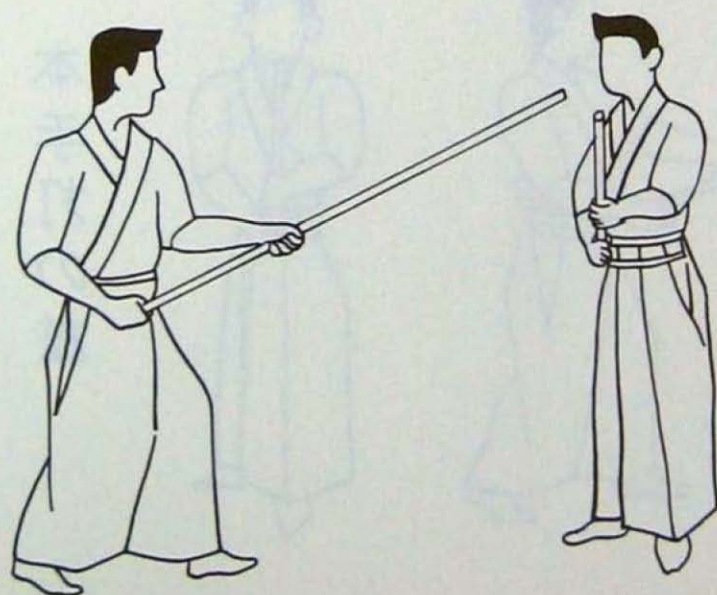
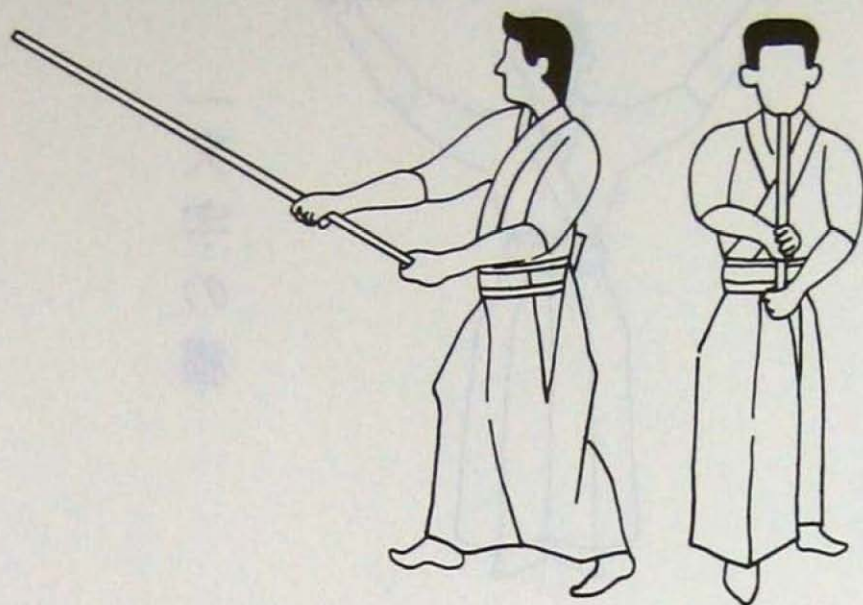
神道夢想流用杖の定寸

總長ハ　四尺二寸一分

直徑八分

左右両手首ヲ曲ゲテ杖が其中ニ丁度一杯ニナル位ノ長サニスル

杖ヲツイテ鎖骨カラ一寸下ガル位ノ長サ

構杖

提杖

抱杖

立杖

擔杖

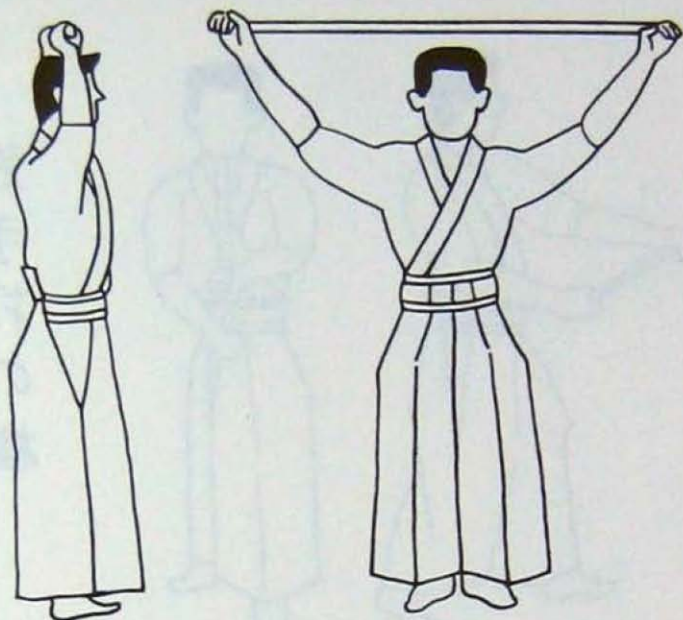
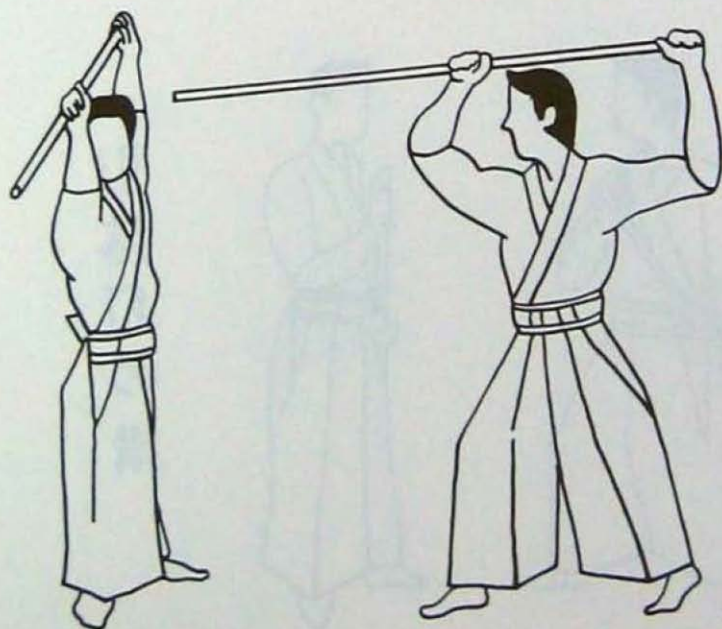
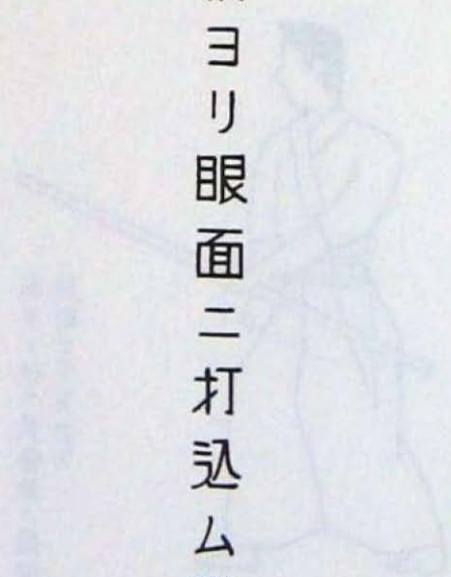
正眼の構

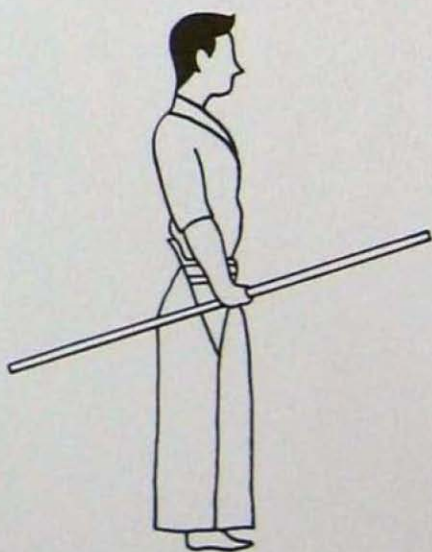
本手打の構

右直突の構

左直突の構

逆手打の構

引落打の構

一文字の構

霞の構

本手打

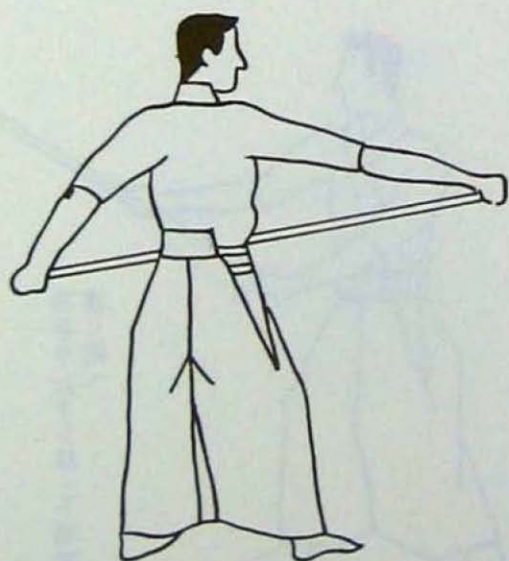
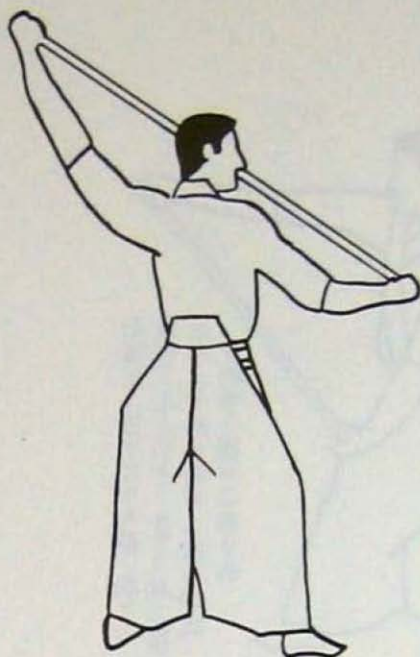
正眼構ヨリ眼面ニ打込ム動作

左足ヲ前方ニ進ミ出スト同時ニ

右手ノ杖ヲ其儘敵ノ眉間ヲ目掛ケテ突出ス

左手デ右手ノ上部ヲ握リ

左手モ辷ラシ握リ換ヘ
本手打ノ構トナル
此際杖先ハ常ニ敵ノ眉
間部ニ付ケル
右手ノ位置ハ臍ノ高サ

右手ヲ辷ラシ杖ノ下端部ニ
握リ換ヘ

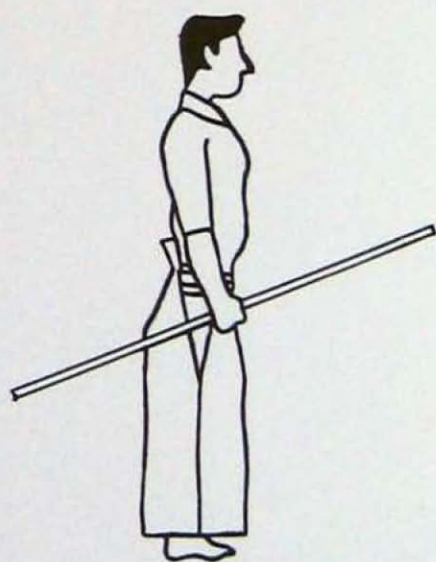
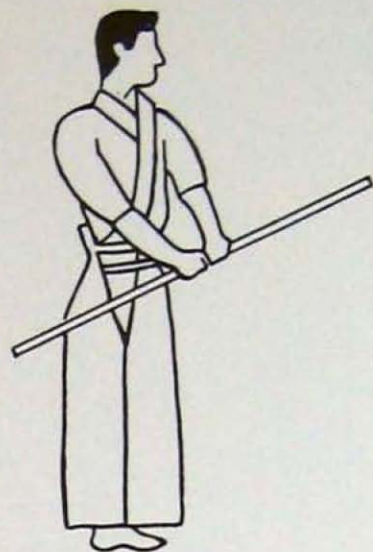
杖ヲ右手デ後方ニ引キ

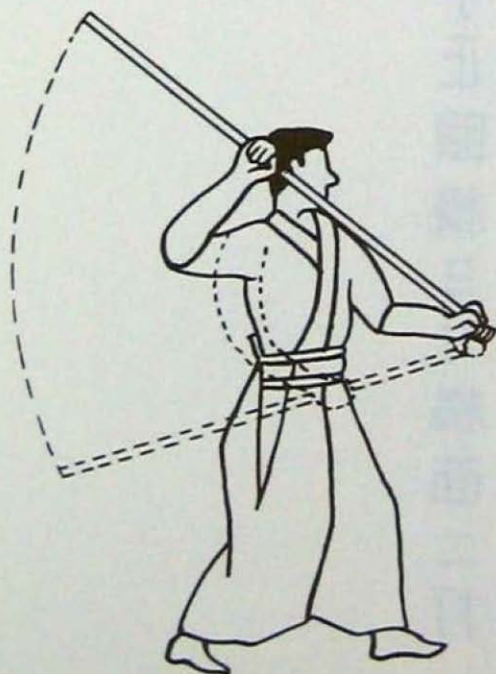
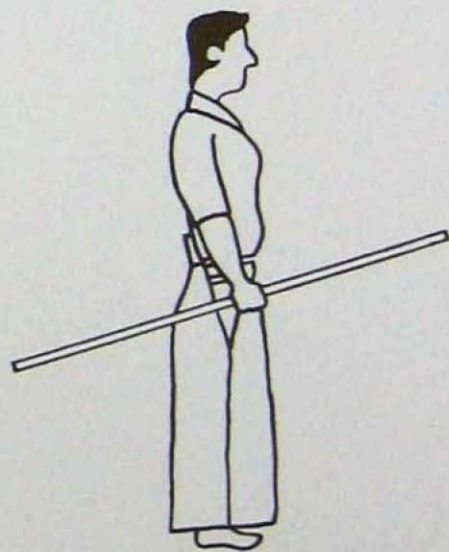
先端ニ達シタトキ
右足ヲ前ニ踏ミ出スト同時ニ
敵ノ顔面ニ打チ下ス
以下コレヲ左右交互繰返
ス
杖ノ両端ヲ掌ノ中デ廻シツ
（手ハ持チカヘル）

杖先ヲ敵ノ面ニ付ケタル儘

右膝上ニ當テ左手ヲ肩ノ高サデ
前方ニ出シ右手ノ掌ヲ杖ニ當テ
左手ニテ杖ヲ後方ニ送リ中央
ガ右手ノ握リニ来タ時

左手ヲ後方ニ徐々ニ引キ
杖先ガ右手握ニ近ヅイタ時

左足ヲ前ニ揃ヘ

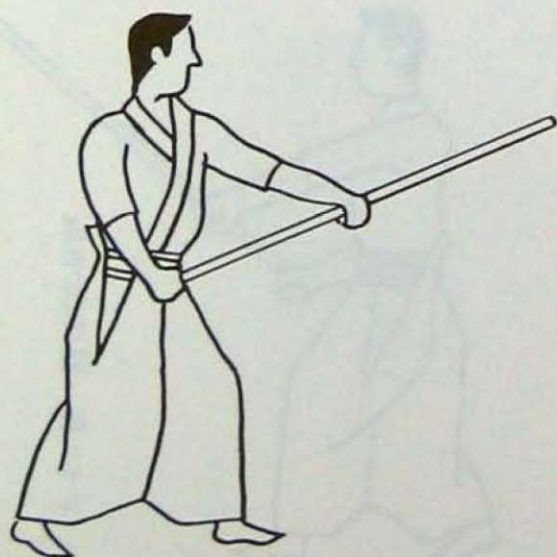
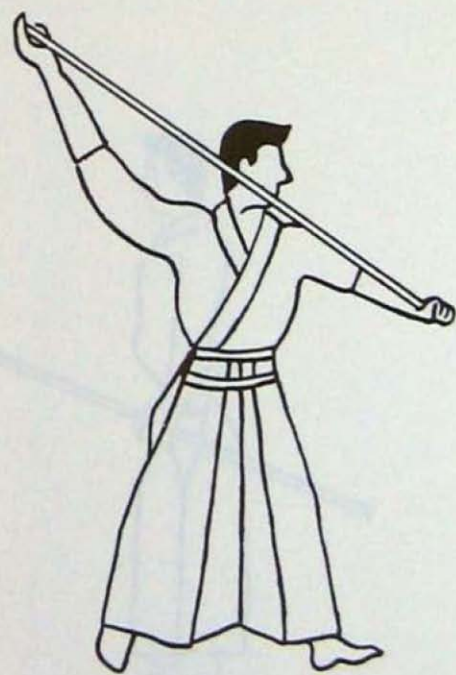
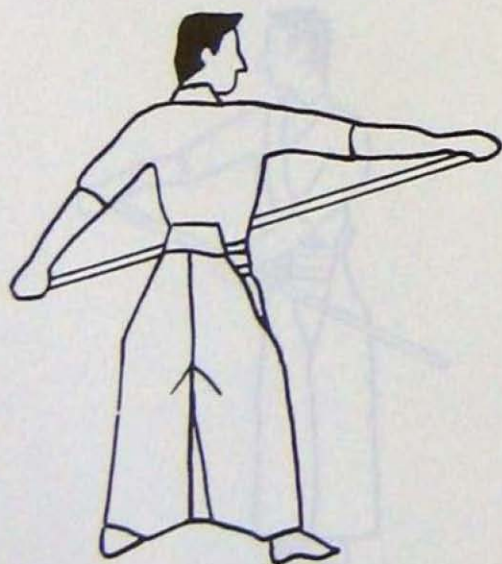
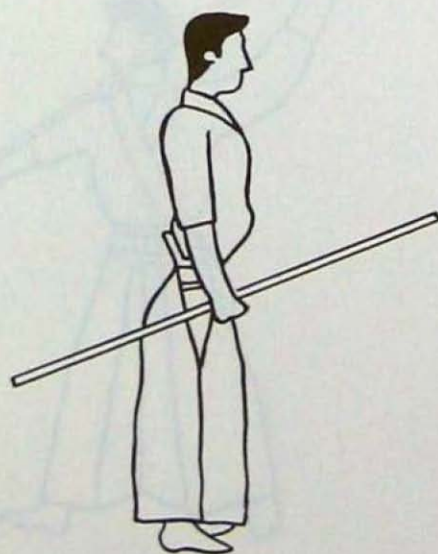
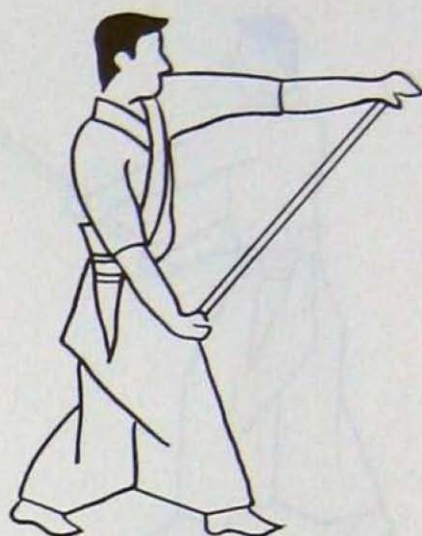
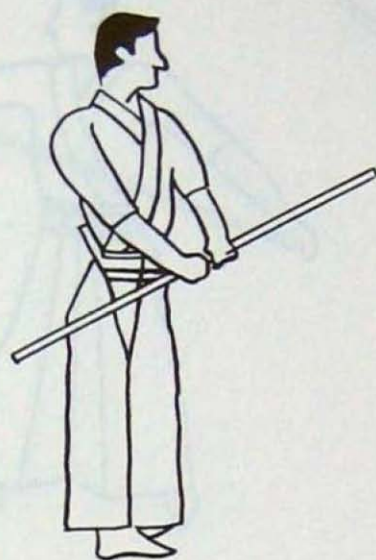
逆手打

逆手正眼構ヨリ横面ニ打
込ム動作

左手デ杖ノ端ヲ軽ク握ルト
共ニ右足ヲ後方ニ引ク

右手デ杖ヲ後方ヨリ前ニ

廻ハシナガラ左足ヲ後方ニ
引キ

左手デ杖ヲ後方ニ引キ

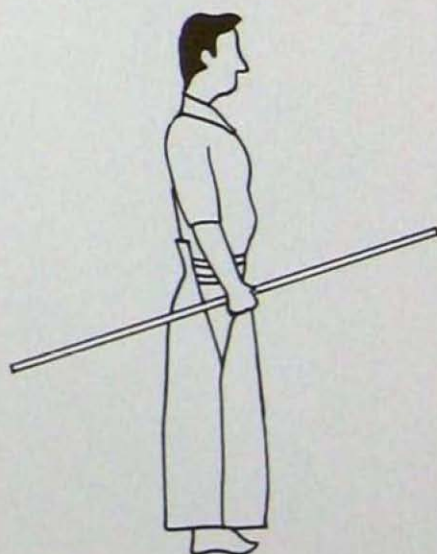
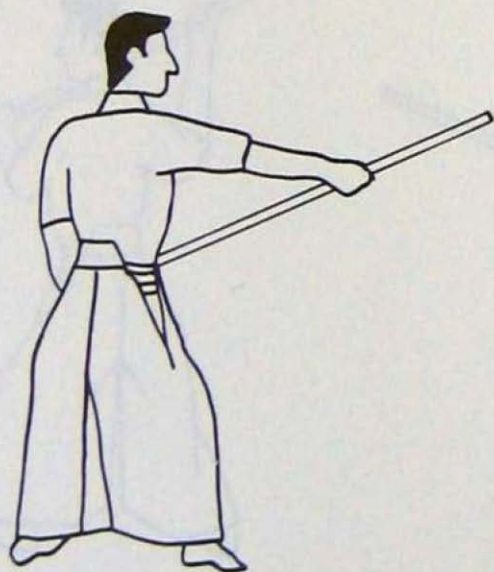
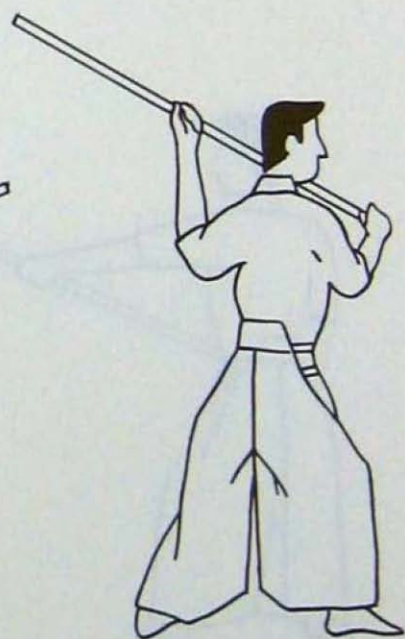
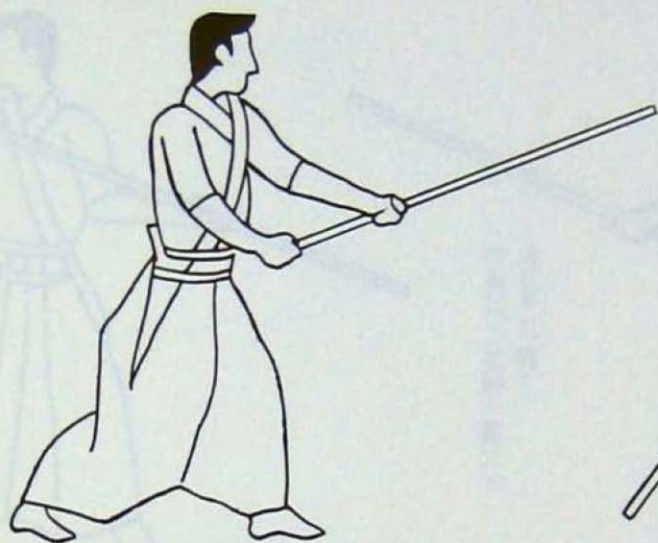
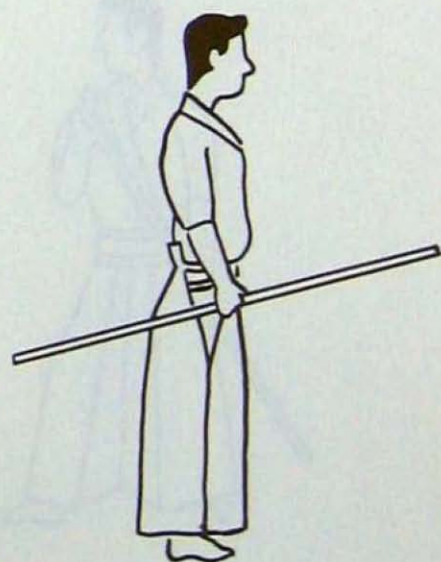
逆手右正眼ノ構トナル

杖一パイ後ニトリタル時

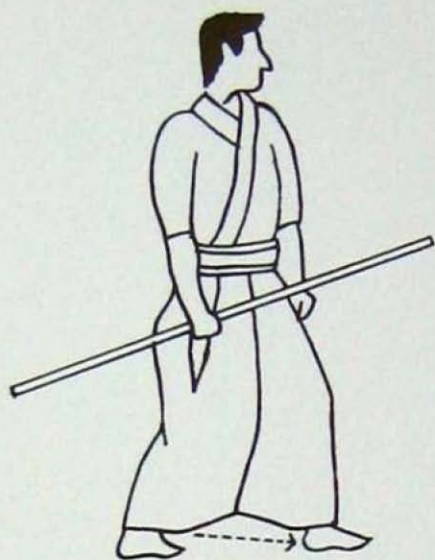
左足ヲ前ニ進メル様ニ
スルト仝時ニ杖ヲ後
方ヨリ
折リカヘス様ニ
敵ノ横面ニ打込ム
以下是レヲ左右交互繰返ス

引落打

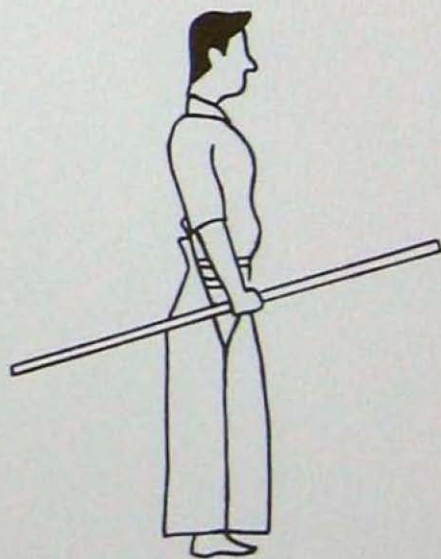
引落シ斜ノ構ヨリ太刀打
拂フ動作

左足ヲ一歩進メ同時ニ左手デ
杖ヲ軽ク握ル

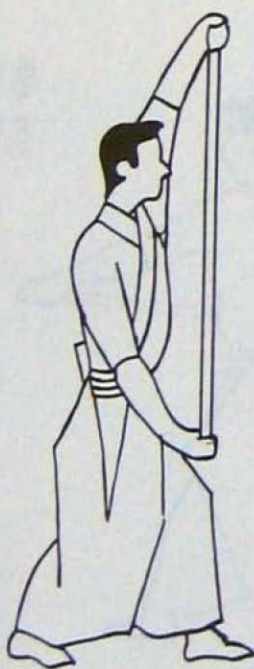
杖ヲ右足踵近クニ引落ス
次ニ右足ヲ一歩進メルト共ニ
引落ノ時ハ左手ハ右乳ニ腕ハ下斜胸部ニツケル

本手打ト今様ノ構ニテ
太刀ヲ打拂フ

捻腰突

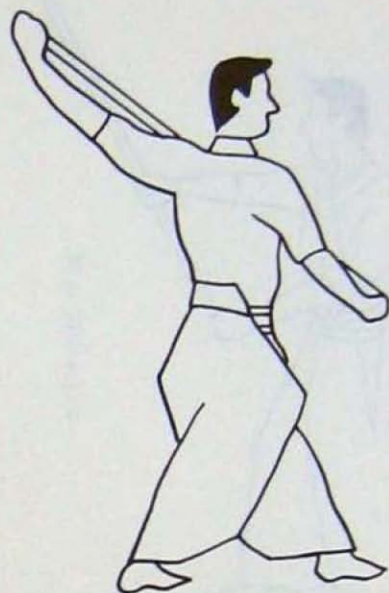
一名返突

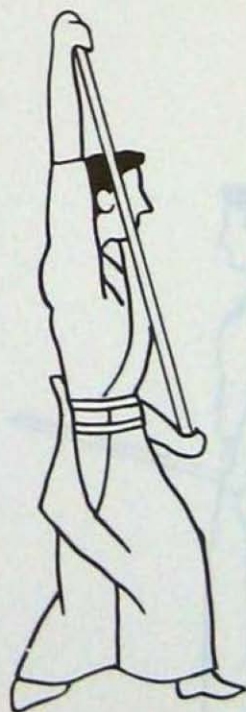
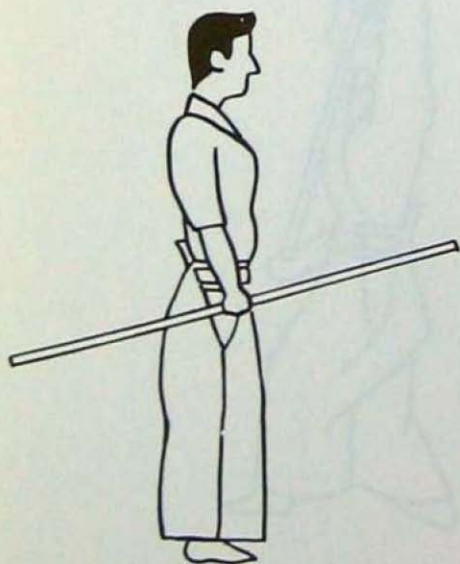
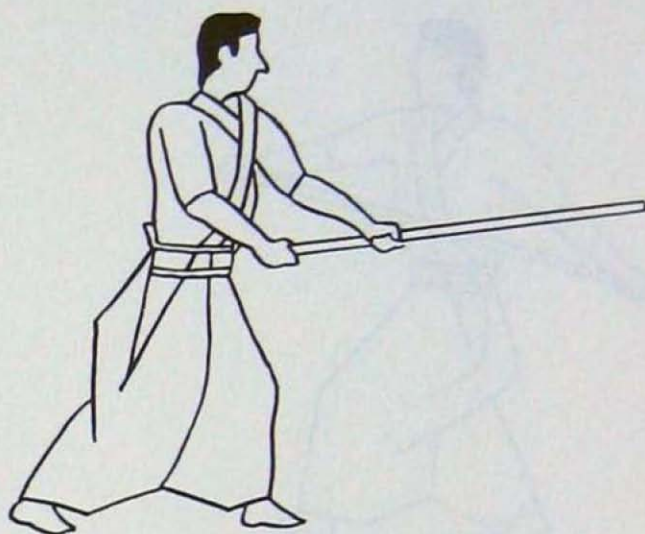
正眼構ヨリ腰ヲ捻リ突出ス動作

左足ヲ前方ニ進ミ出スト仝時ニ

右手ノ杖ヲ其儘敵ノ眉間目掛ケテ突出シ

杖ヲ立テナガラ

左手デ右手ノ上部ヲ握リ

右手ヲ下ゲ左手ハ杖ニ辷ラシテ上ゲ杖ノ両端ヲ両手ノ掌ノ上ニテ回転サセツヽ

右手ヲ辷ラシ杖ノ下端部ニ握リ換ヘ左手モ握リ換ヘ正眼ノ構トナル

左手ハ後方ニ右手ハ前方ニ

腰ヲ転捻シ　左足ハ五十度右足ハ四十五度位ノ角度ニ
股ヲ交叉

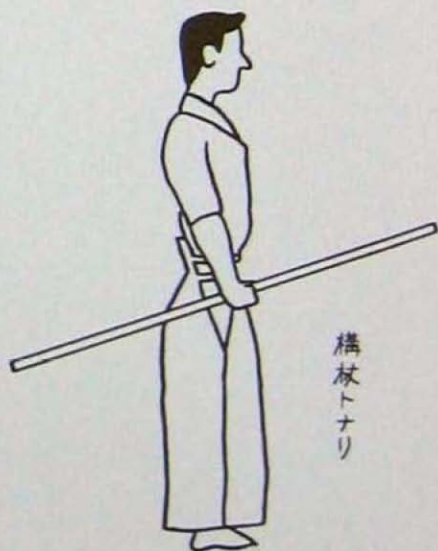
右足ヲ踏ミ出スト仝時ニ
腕ヲ充分伸バシテ杖先
デ敵ノ水月ヲ突キ直ニ
杖先ヲ敵ノ眉間ニツケ
テ構ヘル

繰附

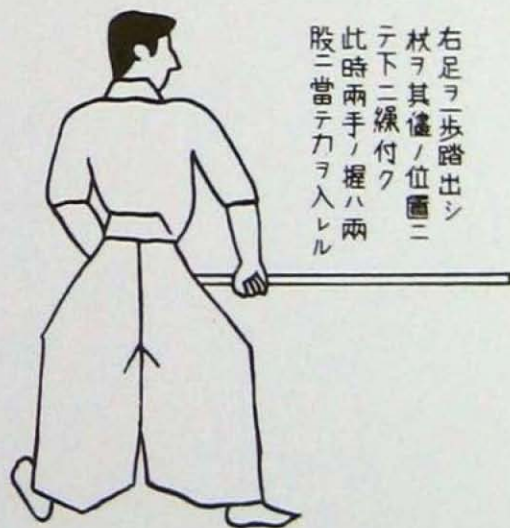
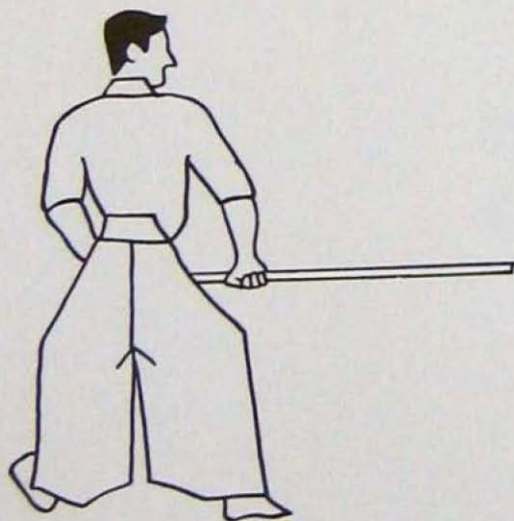
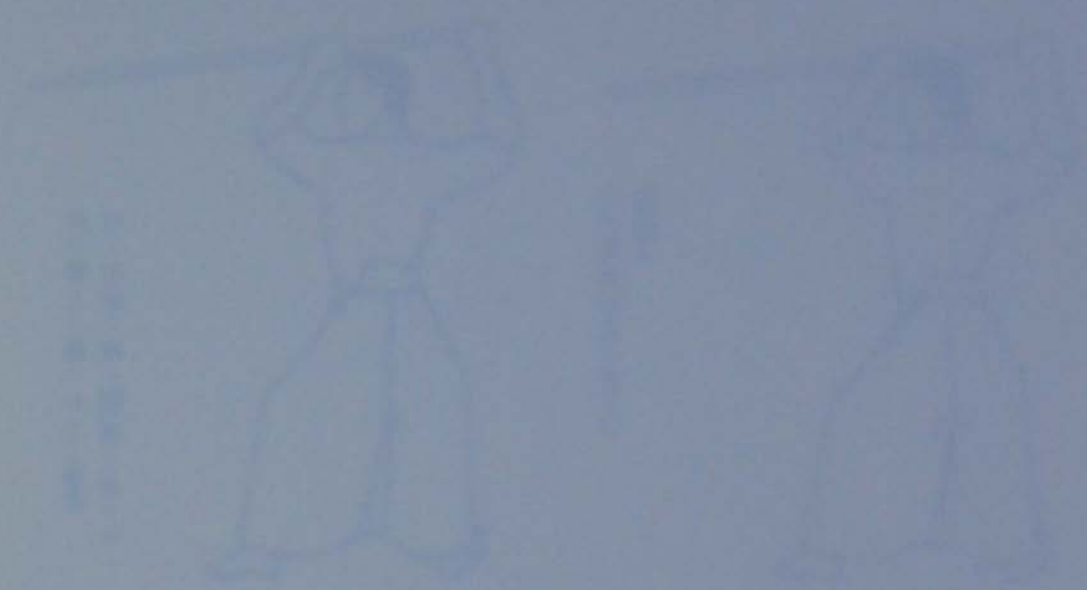
柄元ヨリ顔面ヲ狙ヒ小手共ニ體ニ繰附ク動作

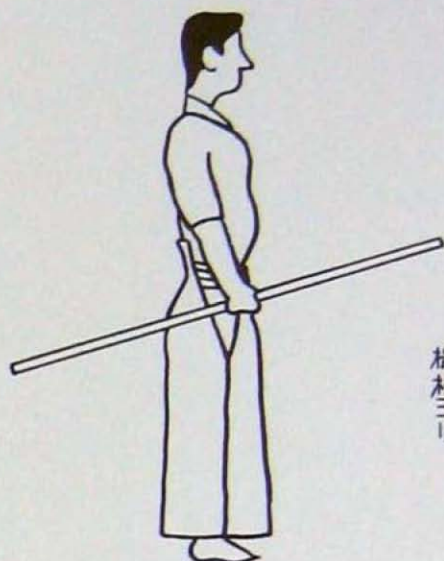
立杖ヨリ

左足ヲ一歩進メルト同時ニ左手デ杖端ヲ軽ク握ル

構杖トナリ

右足ヲ前ニ進ミ出シナガラ

杖ヲ頭上ニ構ヘルコノ場合
杖ノ先端ハ敵ノ眼前ニ付ケル

次ハ其侭右足ハ進メズ
繰返ス

右足ヲ一歩踏出シ
杖ヲ其儘ノ位置ニ
テ下ニ繰付ク
此時両手ノ握ハ両
股ニ當テ力ヲ入レル

繰放

柄元ヨリ顔面ヲ狙ヒ體共
ニ繰放ス動作

構杖ヨリ

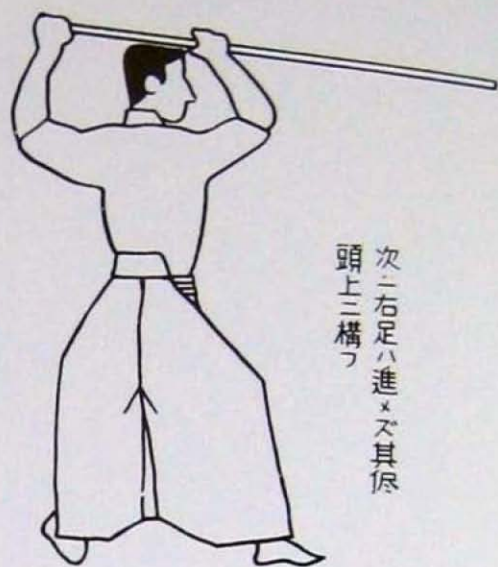
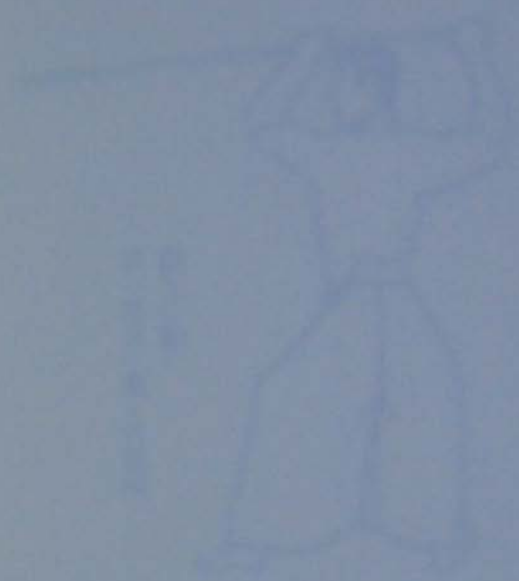
右足ヲ一歩進メルト仝時ニ
杖ヲ頭上ニ構ヘ

左足ヲ一歩進メルト同時ニ
左手デ杖端ヲ軽ク握ル

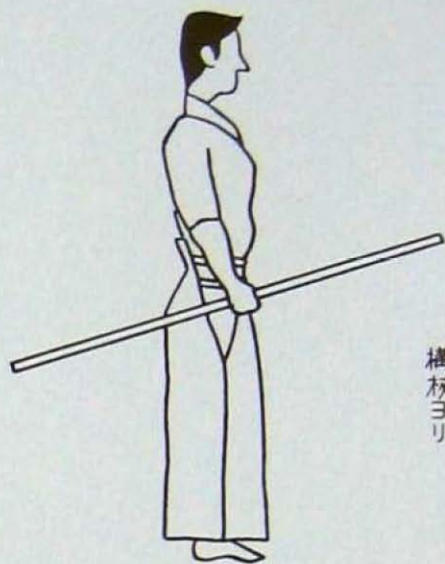
左ヨリ右ニ繰放ス

次ニ右足ハ進メズ其侭
頭上ニ構フ

體當

柄元ヨリ顔面ヲ狙ヒ小手ヲ摺上ゲ體ヲ突放ス動作

構杖ヨリ

右足ヲ一歩進メ
杖ヲ頭上ニ構ヘル

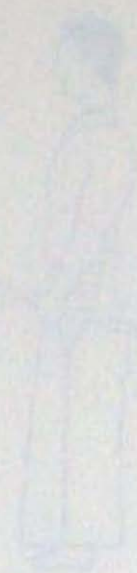
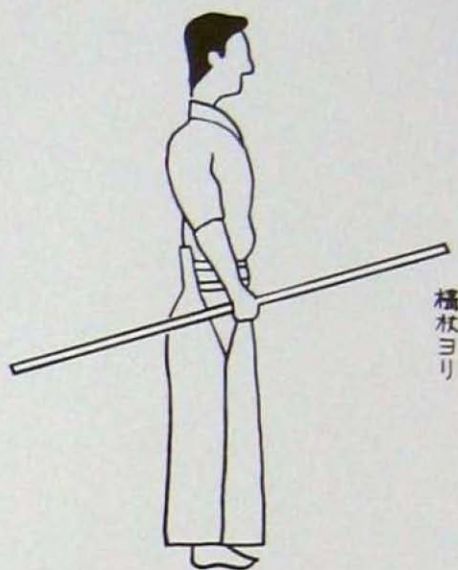
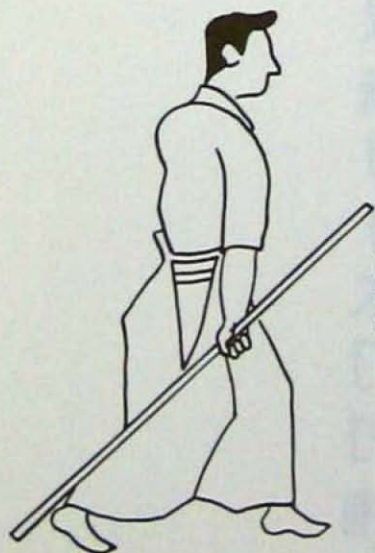
左足ヲ一歩進メルト同時ニ
左手デ杖端ヲ軽ク握ル

先ヲ摺上ゲル様ニ
敵ノ太刀元ヲネラヒ

右足ヨリ進ミ杖ヲ立テツ
敵ノ太刀元ヲスリ上ゲ左足
モ送ル
右手ノ位置ハ敵ノ眼前ニ
左手ハ水月ニ當テル

体ノ重ミヲ利用シ
腕ヲ充分伸バシ
右足ヨリ一歩進メ
左足モ仝時ニ進ム

提逆手打

逆手正眼構ヨリ太刀打拂フ動作

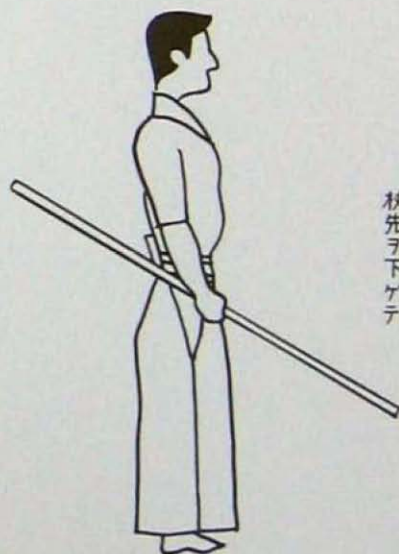
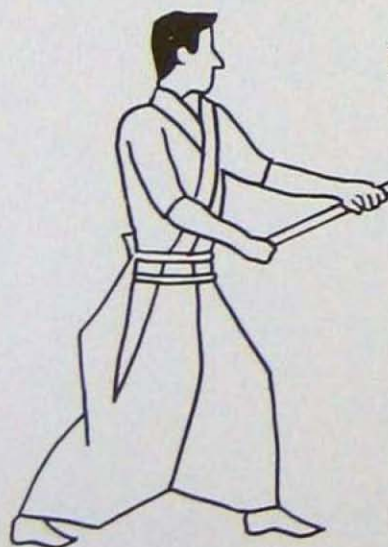
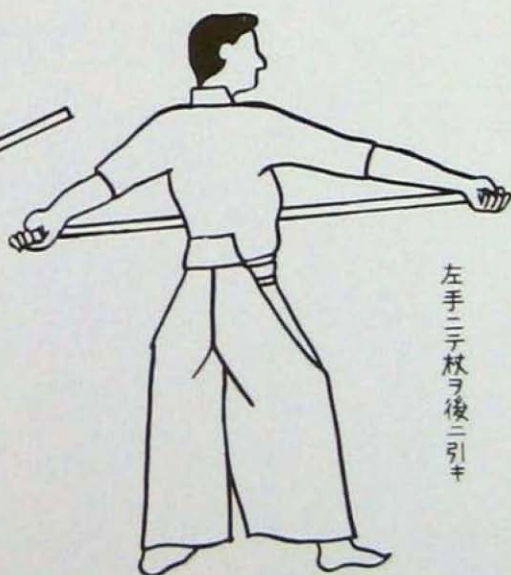
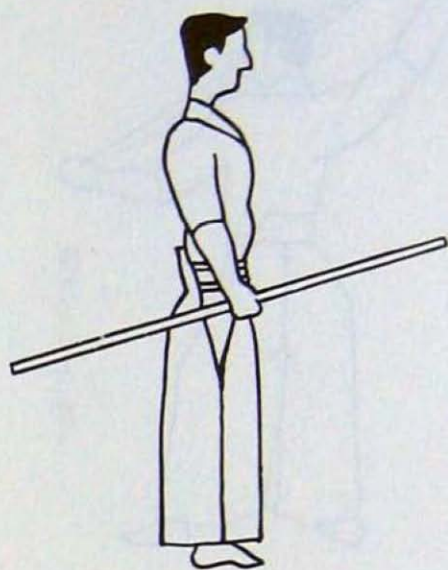
橋杖ヨリ

杖ヲ逆手ニ持チ　端ヲ右足ニ添ヘ
半身ノ構ヘトナル

杖先ヲ下ゲテ

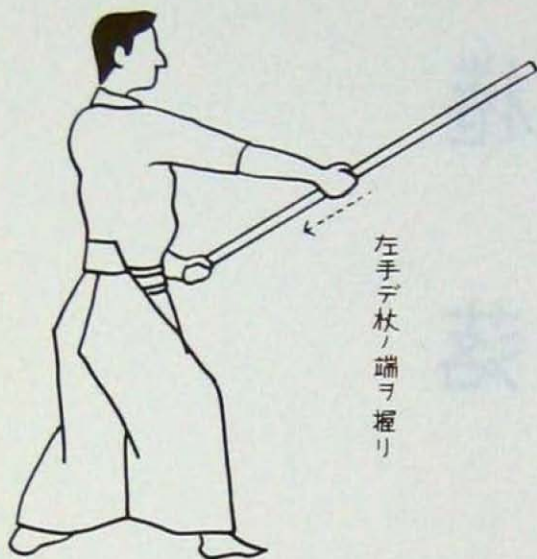
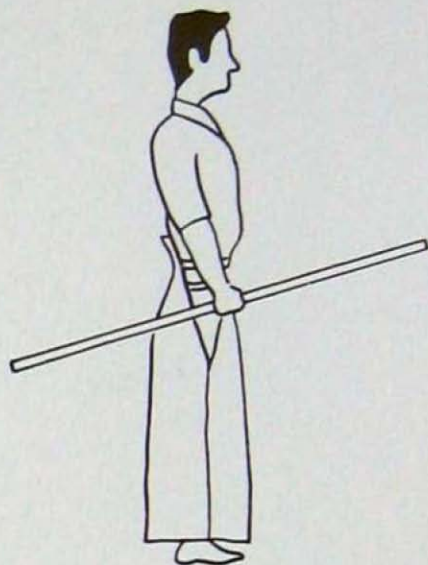
腰ヲ左ニ捻リナガラ

杖ヲ逆手ノマヽ前方ニ突出シ
仝時ニ左足ヲ後ニ引キ
逆手ノ構トナル

後方ヨリ上ニ廻シ

左手ニテ杖ヲ後ニ引キ

打下ス

捲落

正眼構ヨリ摺込ミ太刀捲落ス動作

右足ヲ前方ニ踏ミ出スト共ニ右手ニ握ッタ杖ヲ敵ノ眉間目掛ケテ突出シ

右手ヲ辷ラシ来リ正眼ニ構ヘル

體ヲ稍左リ前方ニ屈メ
両肱ヲ少シ左方ニ上ゲ

杖ハ半月ヲ描キツヽ
右足ヲ進メ仝時ニ左
足モ送リ太刀ヲ捲落
シ

敵ノ太刀ヲ左方ニ捲落ス様ニ
シテ

杖先ヲ敵ノ眉間ニ付ケル

突外打

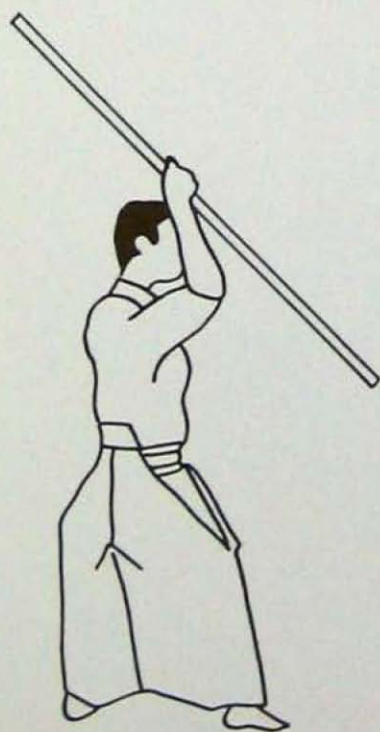
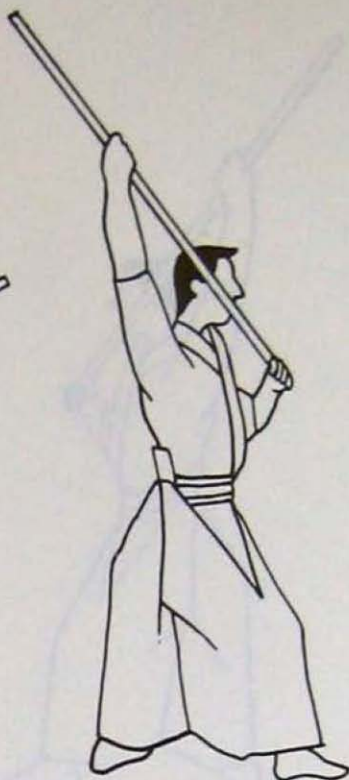
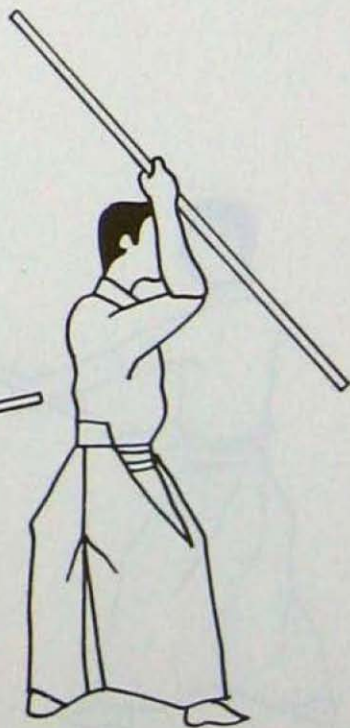
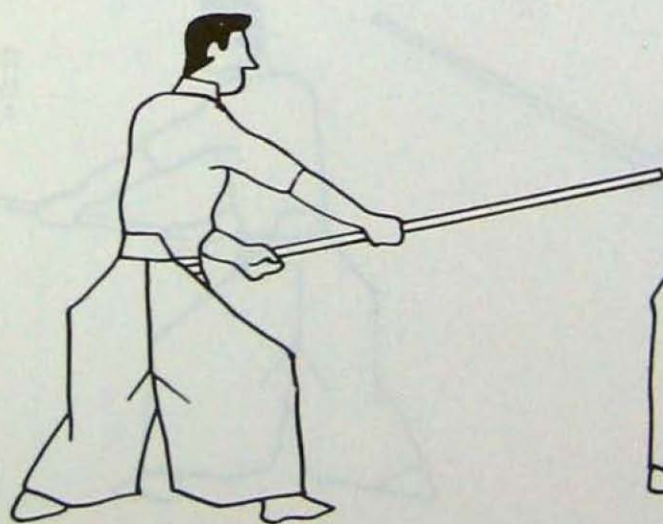
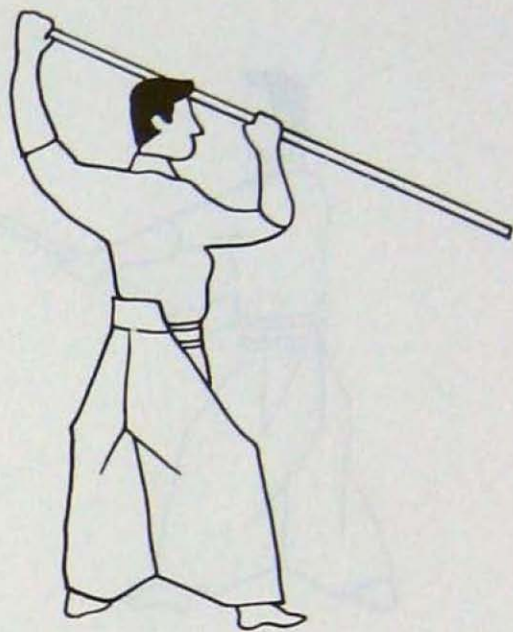
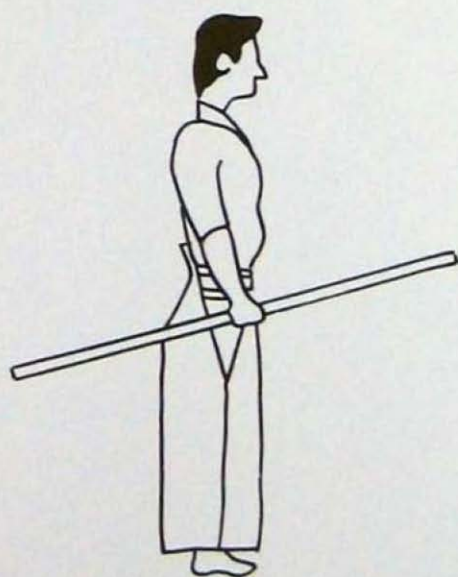
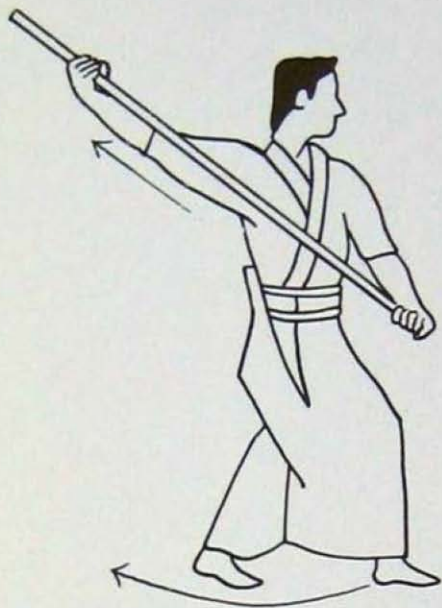
突キノ太刀先ヲ外シ太刀
打落ス動作

両手ニテ杖ノ両端ヲ握リ
中央ヲ頭上ニ置ク

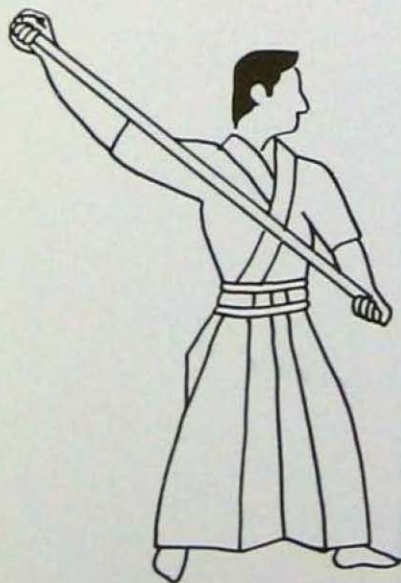
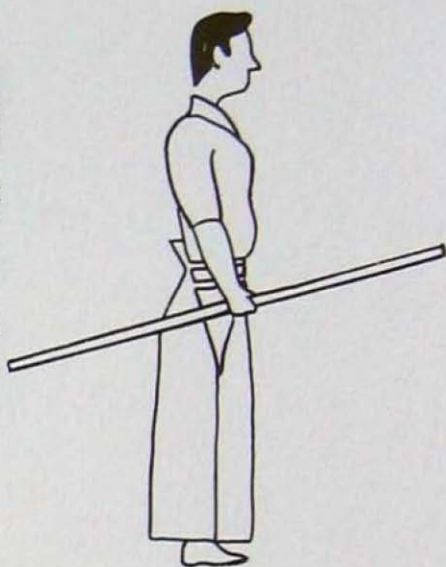
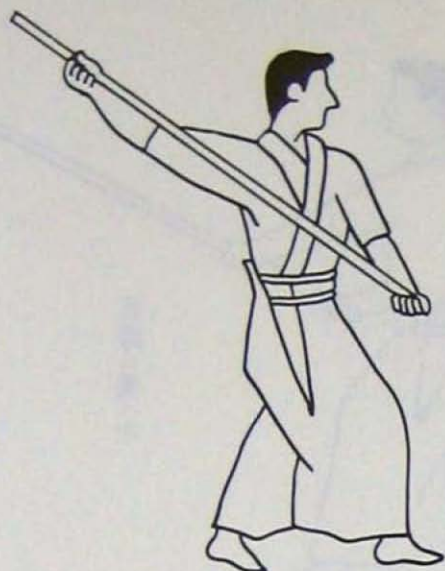
左足ヲ後方ニ引キ同時ニ
左半身トナリ右手ハ杖ヲ
辷ラシナガラ自己ノ額前ニ
四十五度ノ角トスル

左手ハ杖ノ下端ニ握リ換ヘ

一歩進ミツ、
直チニ右正眼トナリ
突込ム
打込ミ

胴拂打

胴ヘ切込ヲ受止メ太刀打
落ス動作

右足ヲ後方ニ引キナガラ
右手デ杖ヲ右上後方ニ
倒シナガラ上方ニ辷ラセ

右正眼ノ構ヘヨリ

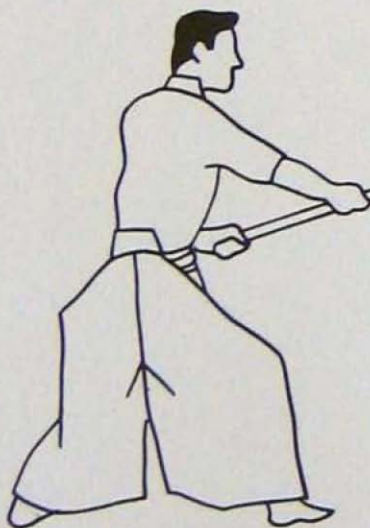
手一杯ニナリタル時
掌ニヨッテ向ヲ替ヘ

左手ハ肩ノ高サ
右手ハ目ト水平
ニシテ敵ガ胴ヲ拂フ
ノヲ防ギ

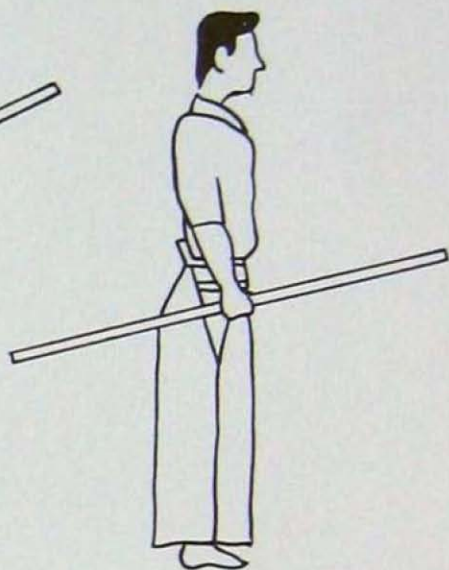
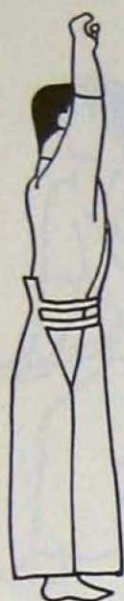
右足ヲ進メルト仝時ニ
上方ヨリ太刀ヲ打拂ヒ

右手ヲ頭上ノ高サニ後方
ニ引キ左手ハ下方ニ返ラ
シナガラ掌デ向キヲ替ヘ

面ヲ突キ

正眼ニ構ヘル

體外打

面切込ヲ外シ太刀打落ス
動作

三ノ動作ヨリ
左正眼ニ構ヘ

1. 右手ヲ充分
後方ニ引キ
2. 左手ハ辷ラシナガラ
杖端ヲ軽ク握ル

左手ハ左膝上ニ当テ

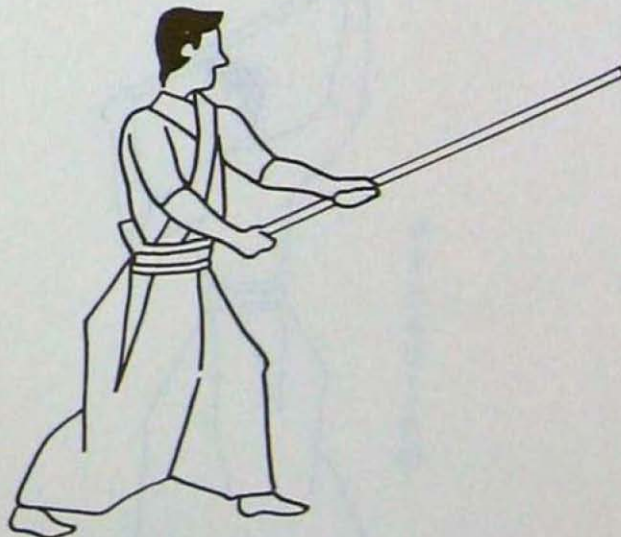
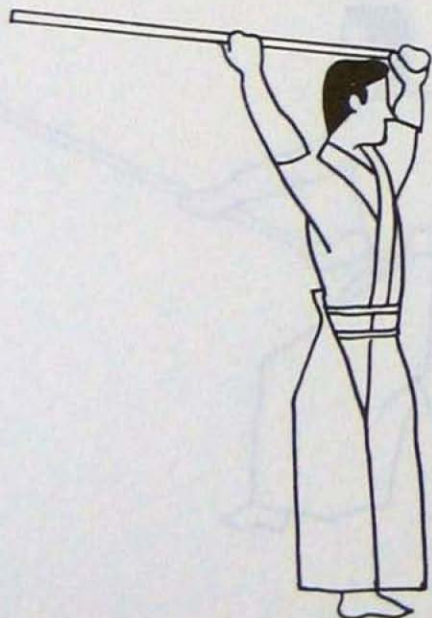
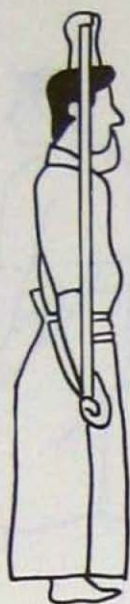
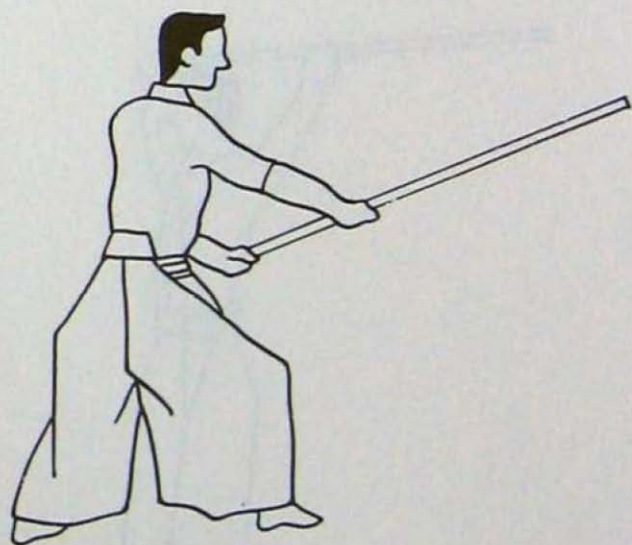
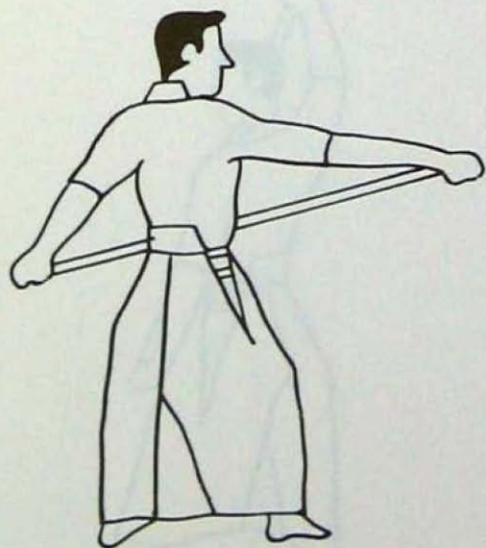
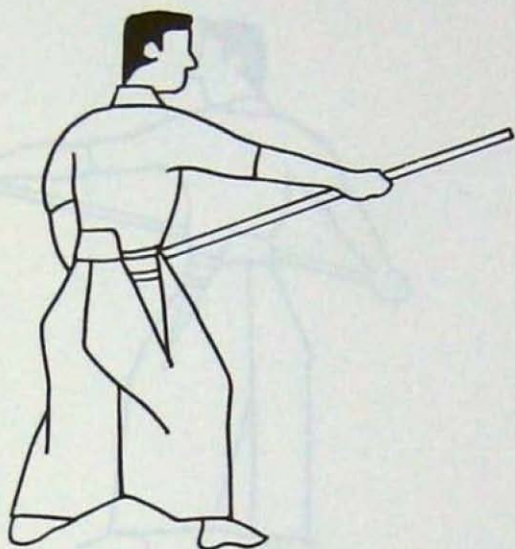
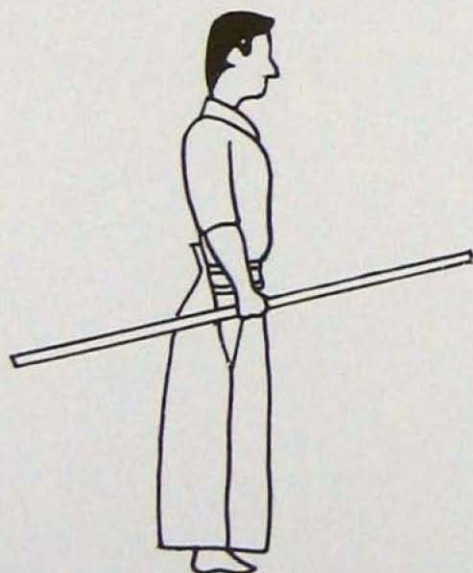
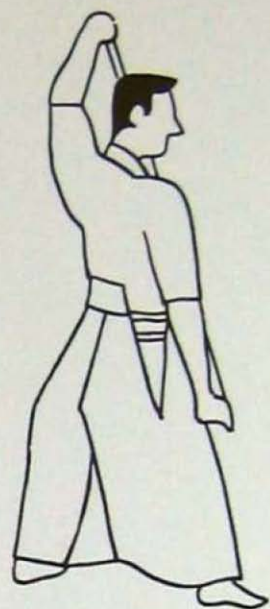
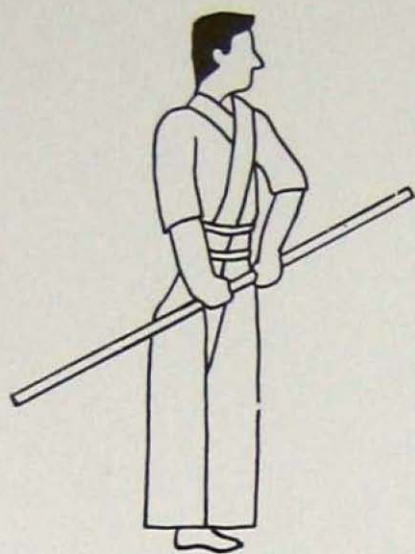
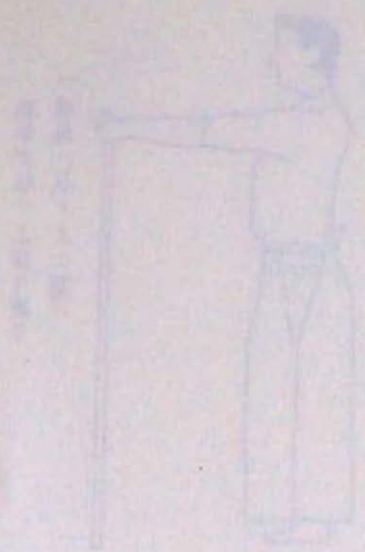
1、左足ヲ後方ニ引クト仝時ニ

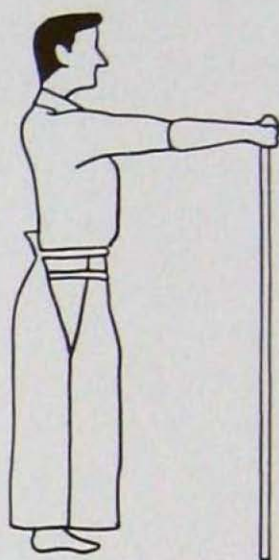
2、右手ハ頭上ニ

3、左手ハ右股ニ添ヘ

右足ヲ一歩引クト仝時ニ

打チ下ス

突杖

右手デ杖ノ上端ヲ握リ
（拇指ハ杖ノ上ニ置ク

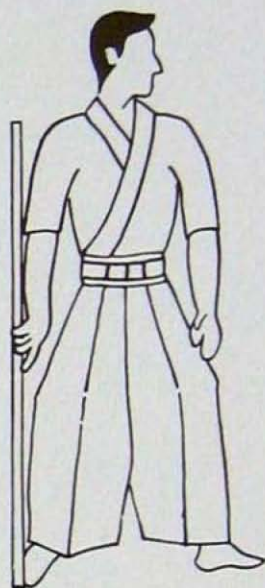
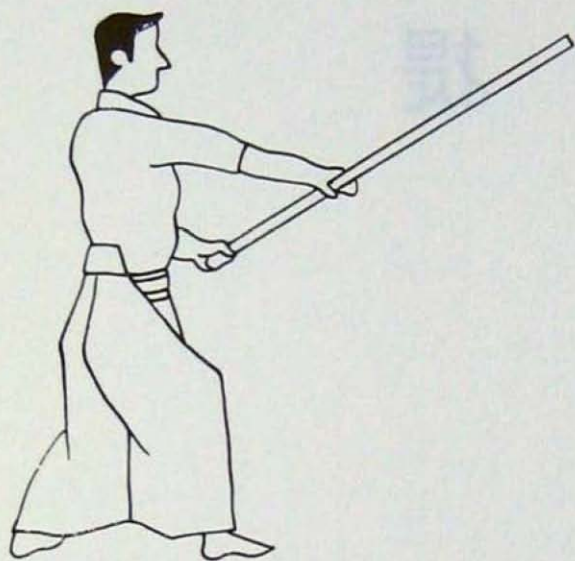
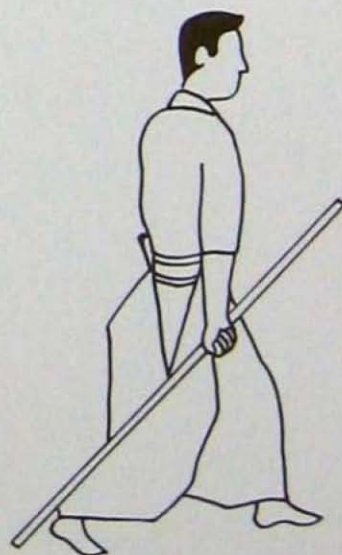
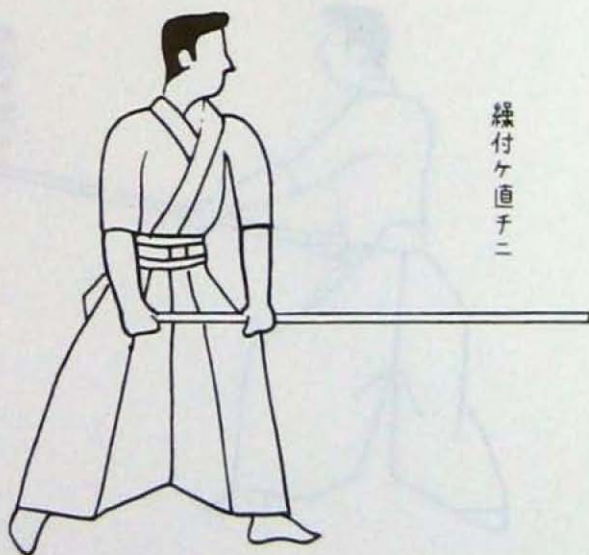
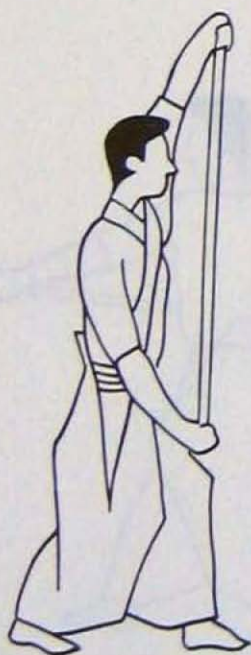
左手ニテ杖ヲ掬ヒナガラ

右足ヲ斜後方ニ引キ
左足ヲ前方
二歩進メ
敵ノ左小手ニ
打込ミ

敵ノ左上リ
小手ヲ打ツ
右手ニテ杖ヲ
引キナガラ

右本手ニ

提

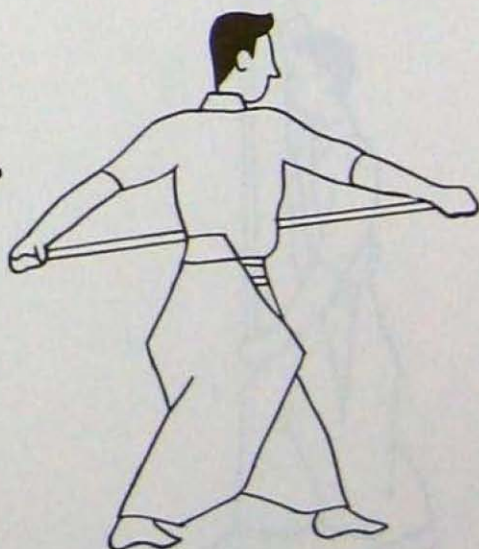
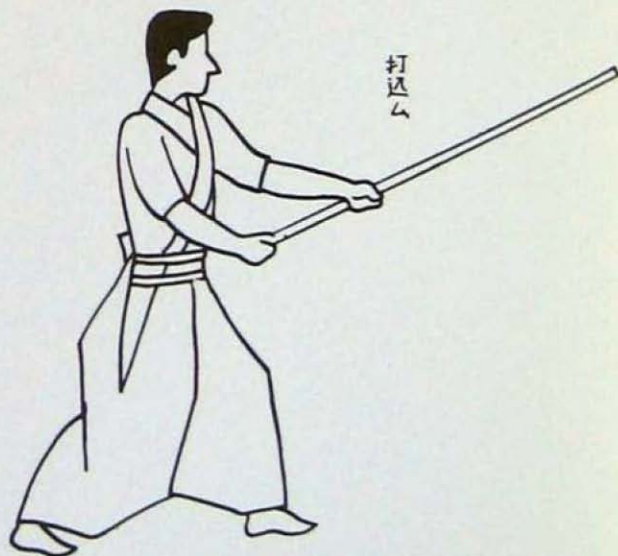
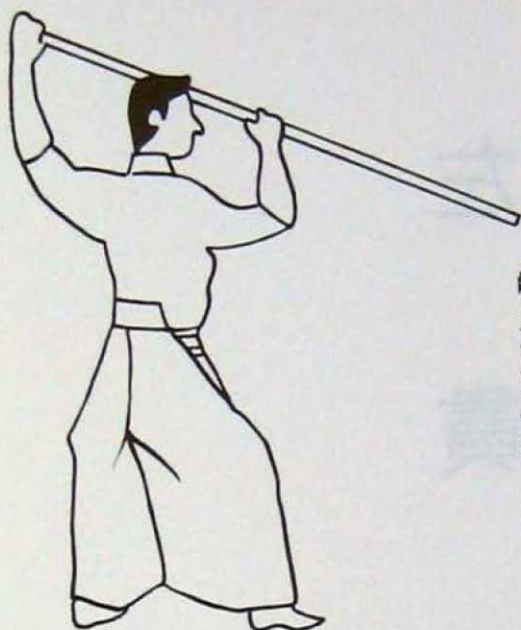
提ゲ逆手ニ構ヘ

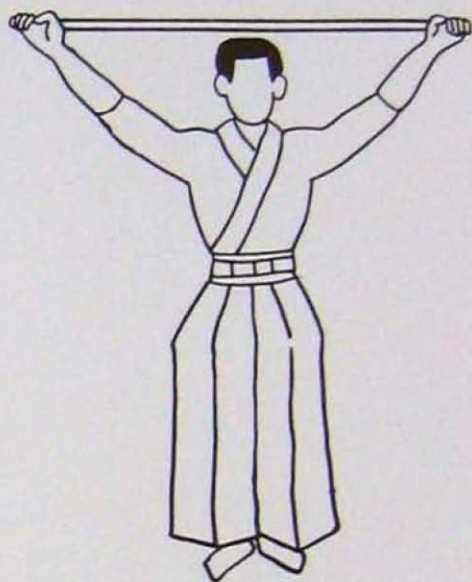
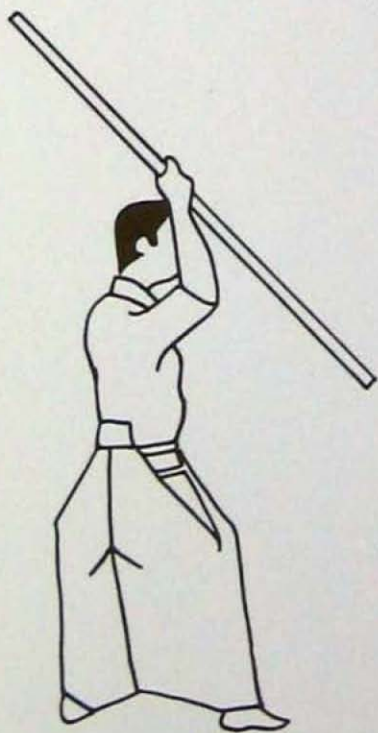
一歩後ヘ下ガリ引落ス

躰ヲ右斜ニ開キ左足ハ右斜ニ進ミ
捻腰ニテ
繰付ケ直チニ

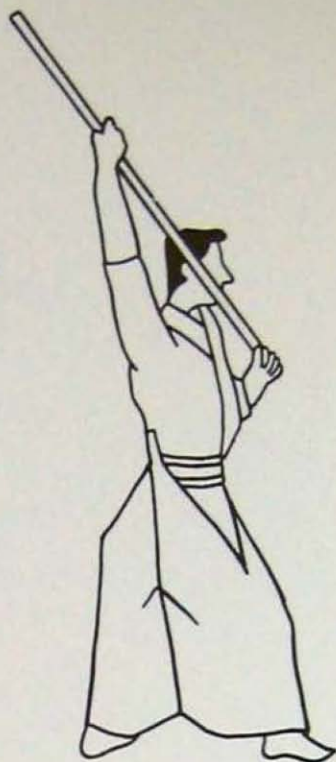
水月ヲ突キ

引落シテ

打込ム

左　貫

突外シノ構ヘトナリ

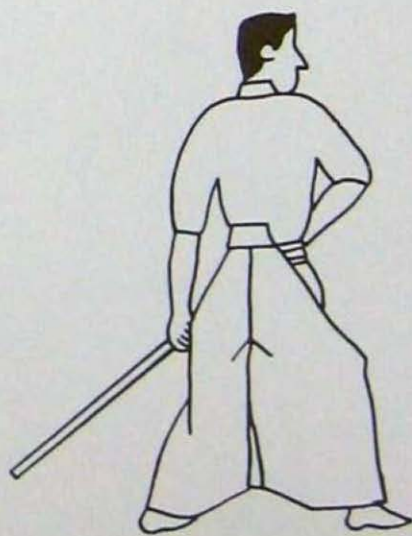
敵ノ太刀ヲ受流シ

杖ヲ持替ヘ

杖先ヲ敵ノ面部ニ付ケタルマヽ右足ヲ尚一歩進メ左足モ共ニ送ル

右足半歩進メテ太刀ヲ打拂ヒ

次ニ右ニ引落シ

打込ム

物見

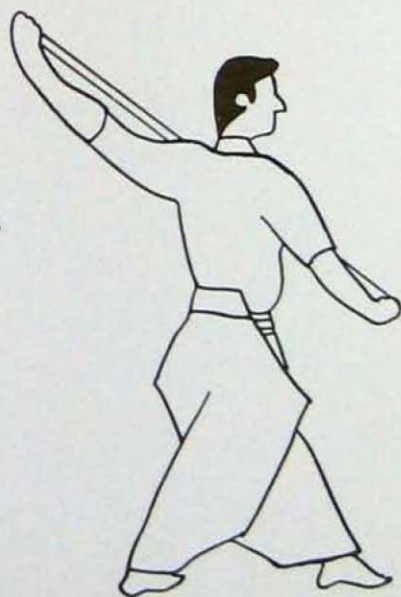
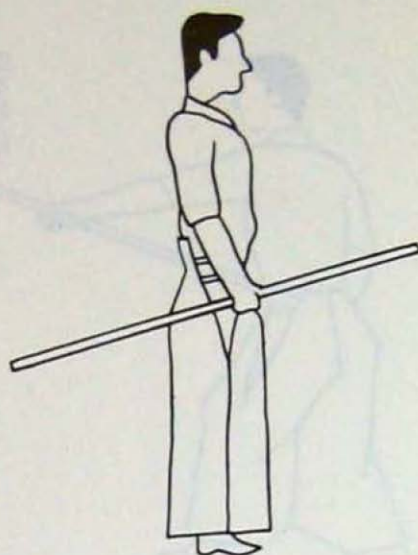
右手ニテ杖ノ端ヲ握リ　下端ハ左側ニ
横タヱテ構ヘル

右足ヲ後方
ニ引キッ、小
手ヲ打ッ

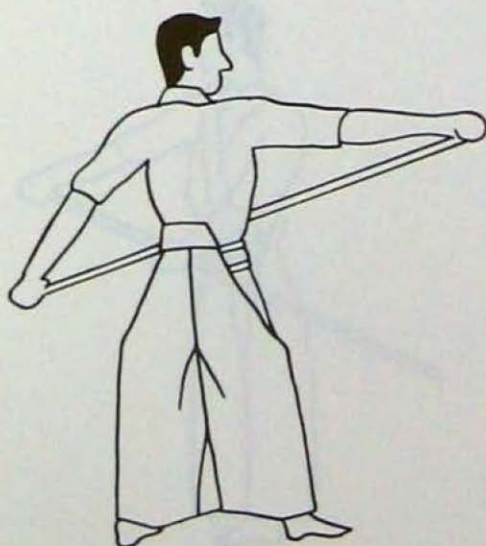
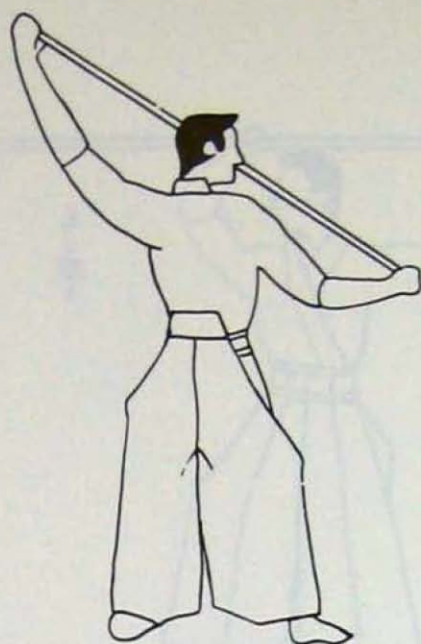
敵打込ムヤ　左足ヲ後方ニ引クト全時ニ
左半身トナリ左手ニ杖ヲ握リ

捻腰ニテ

水月ヲ突キ

杖先ヲ肩間ニツケル

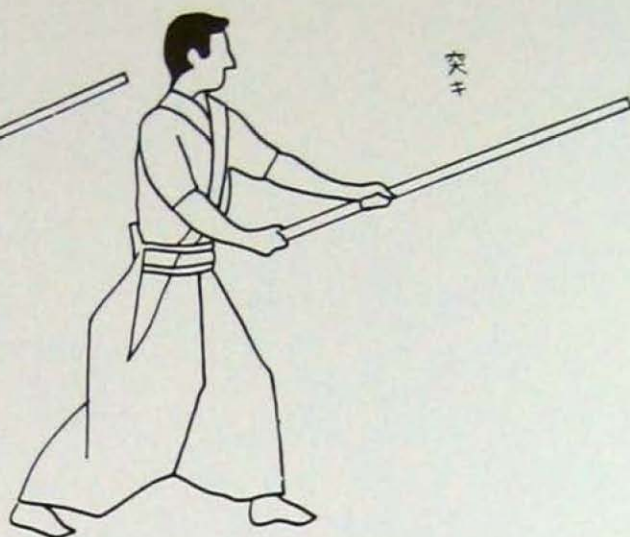
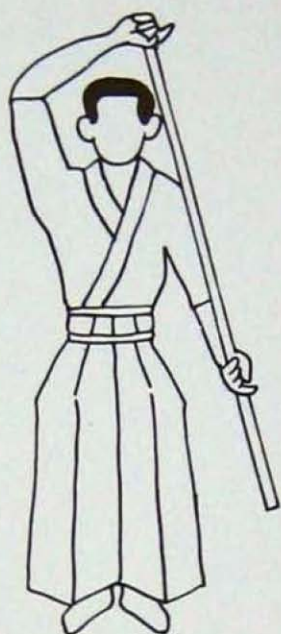
霞

1. 左手ハ乳ノ高サニテ杖ノ端ヲ握リ

2. 右手ハ逆ニ肩ノ高サニシテ右足ヲ後方ニ引ク

逆手打込ミ

逆手ノ構ヘトナリ

右ニ引落シ

左ニ開キ

打込ミ

體當リ

右ニ開キ

打込ム
突キ

引落シテ

細道

杖ヲ右肩ニ擔ヒ

敵ニ接近スルヤ

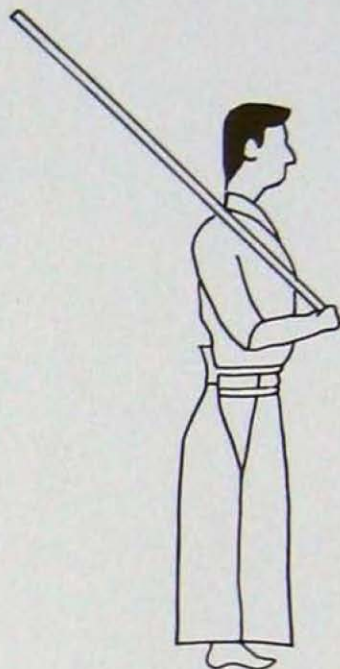
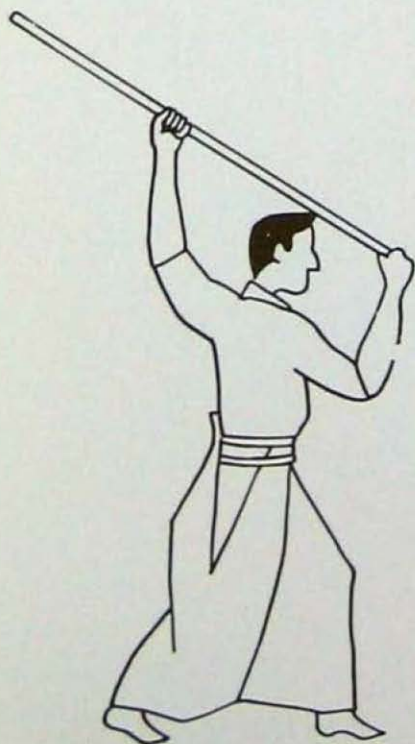
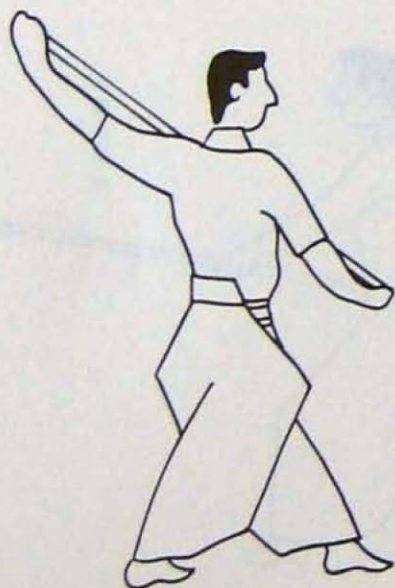
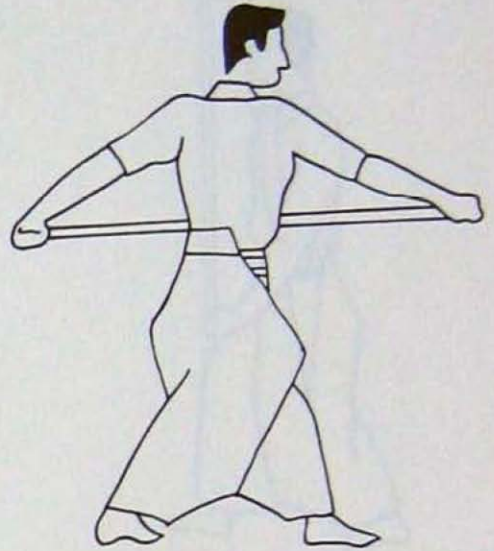
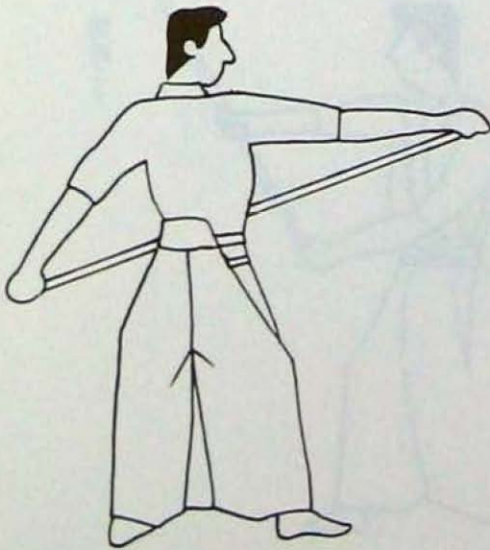
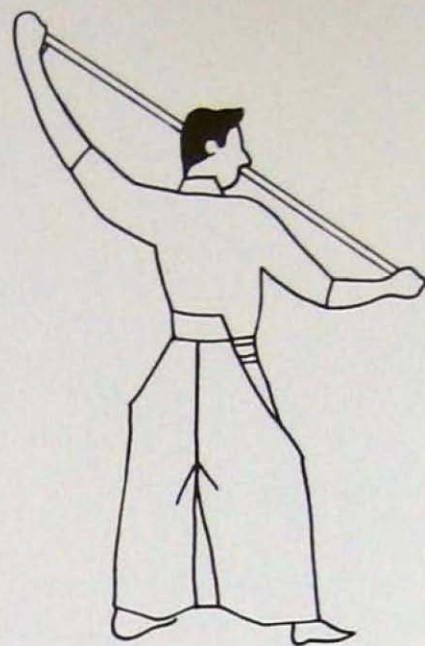
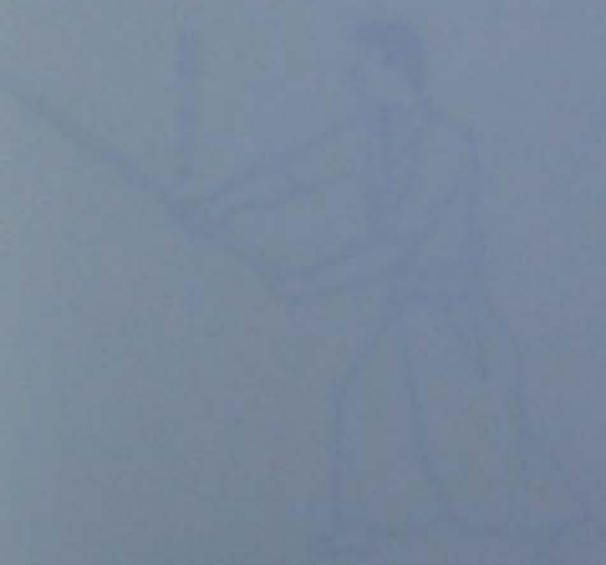
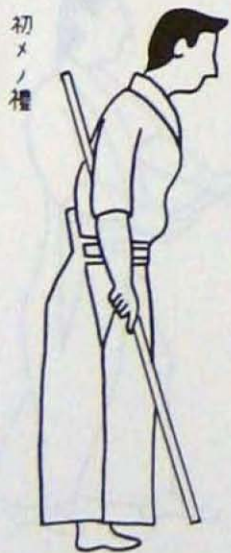
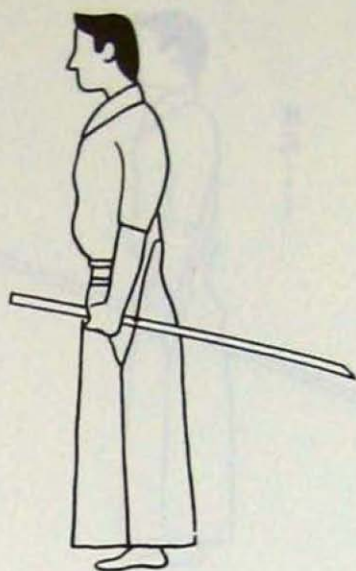
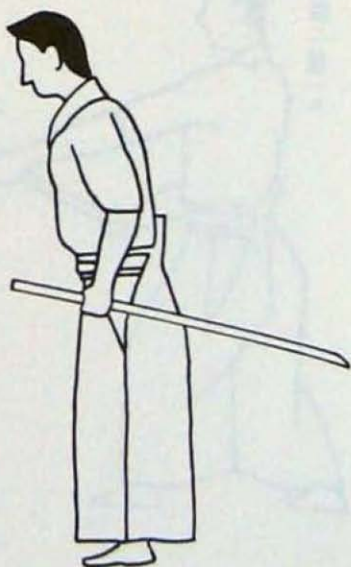
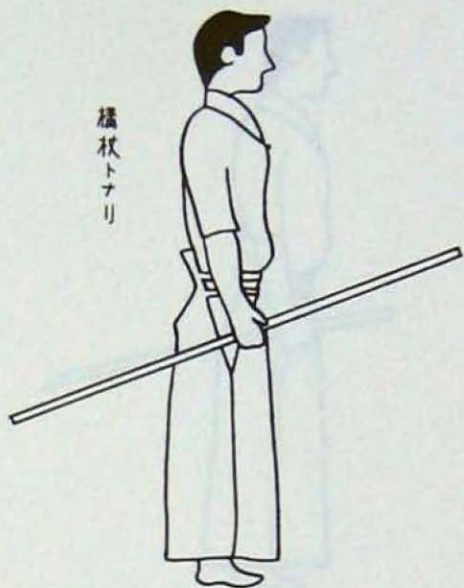
體外シノ形ニテ

本手ニ打込ミ

小手ヲ打チ
捻腰ニテ

本手ニテ
水月ヲ突キ

顔面ニ打込ム

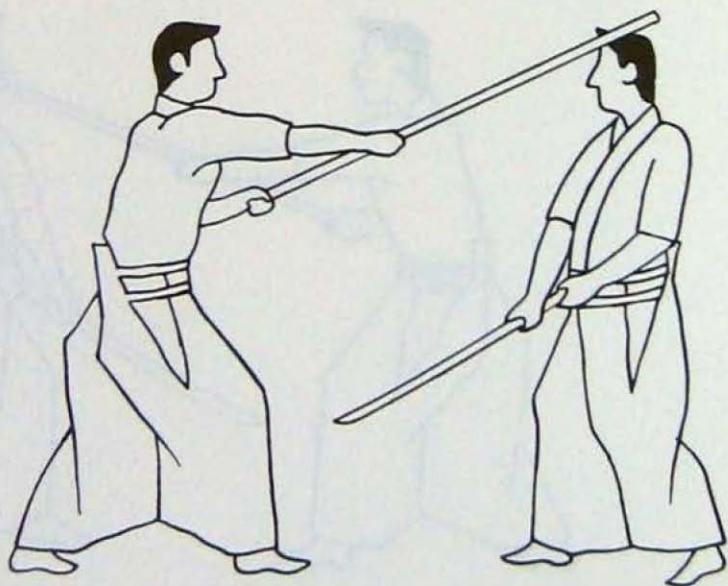
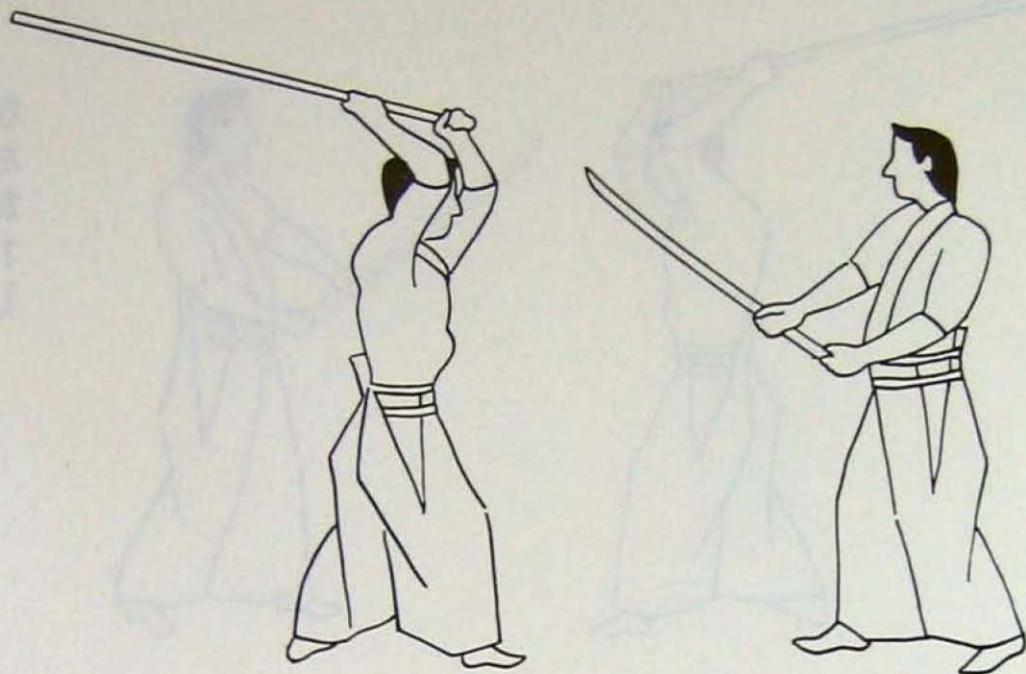
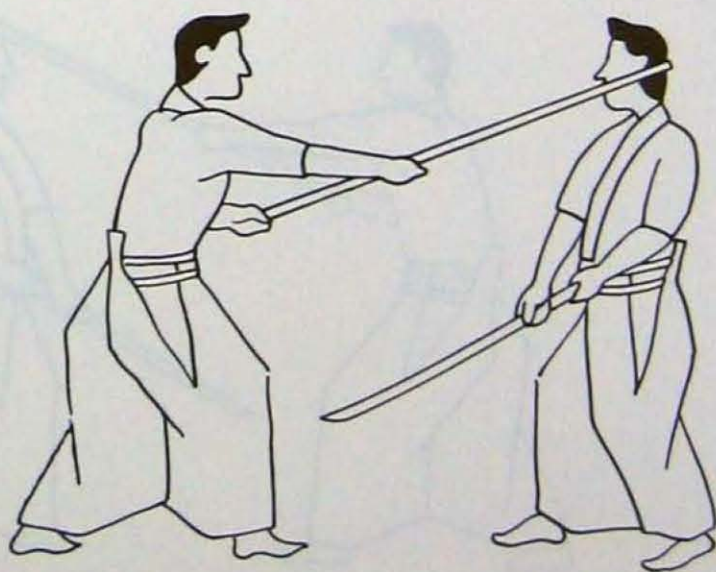
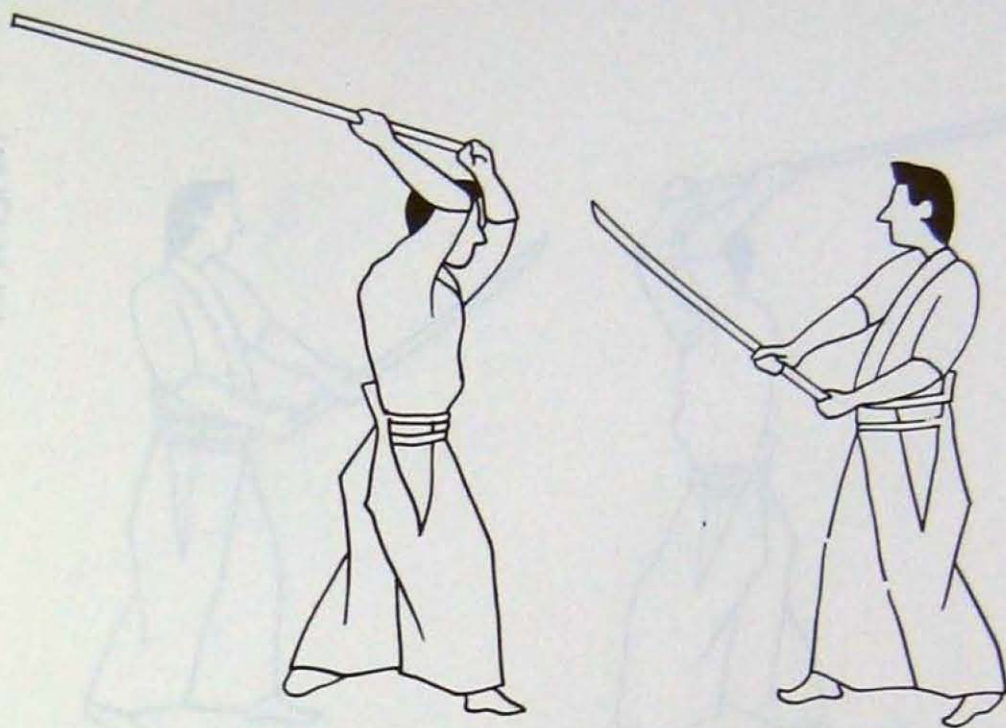
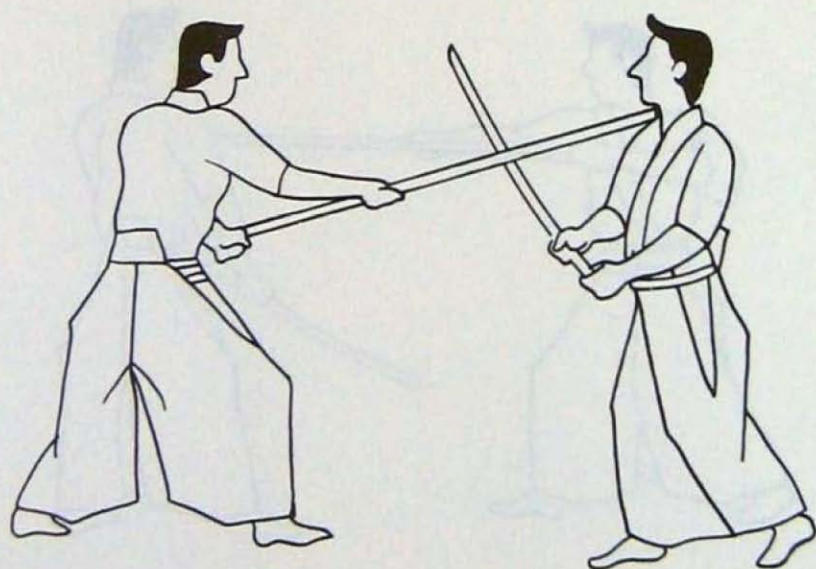
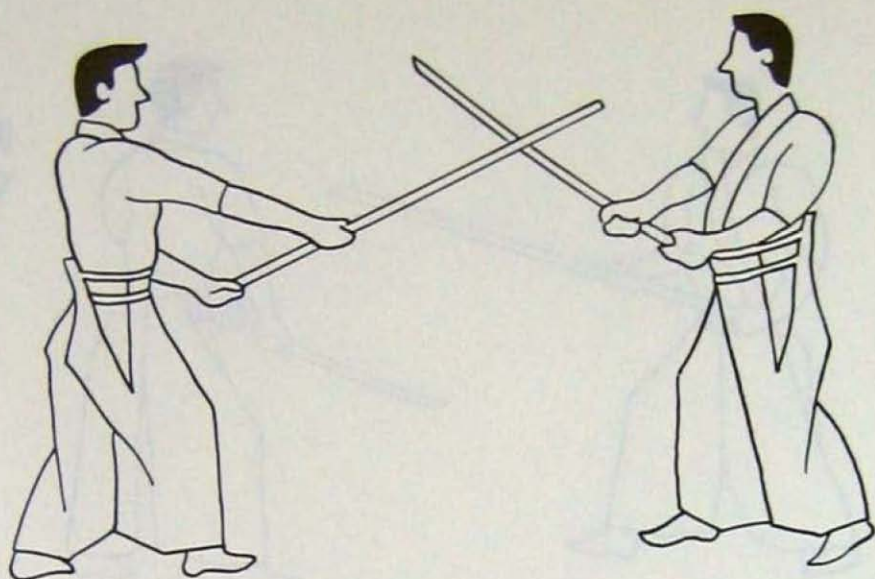
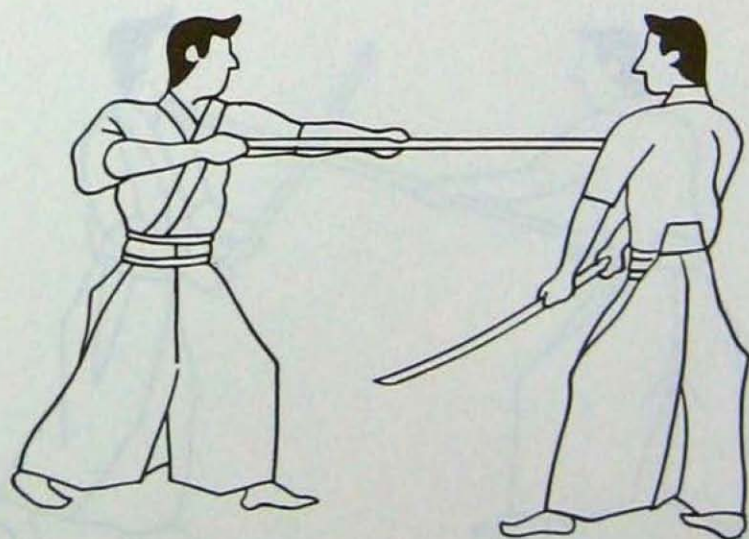
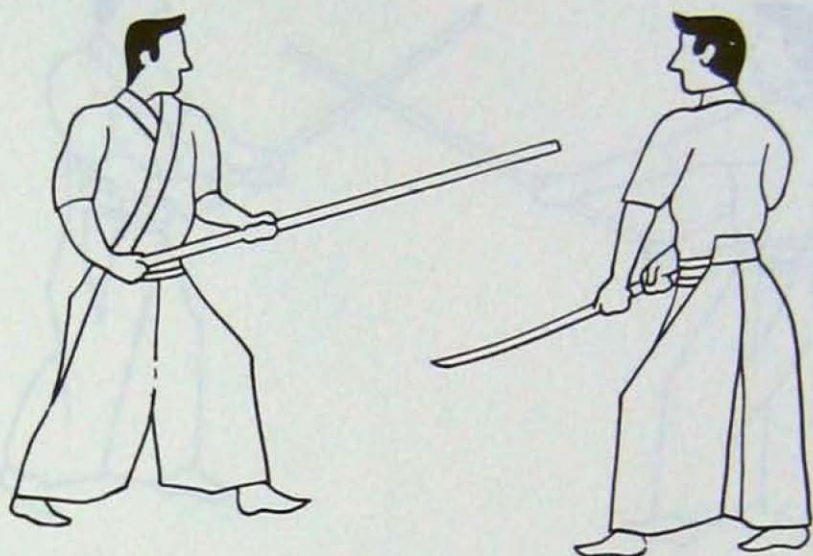
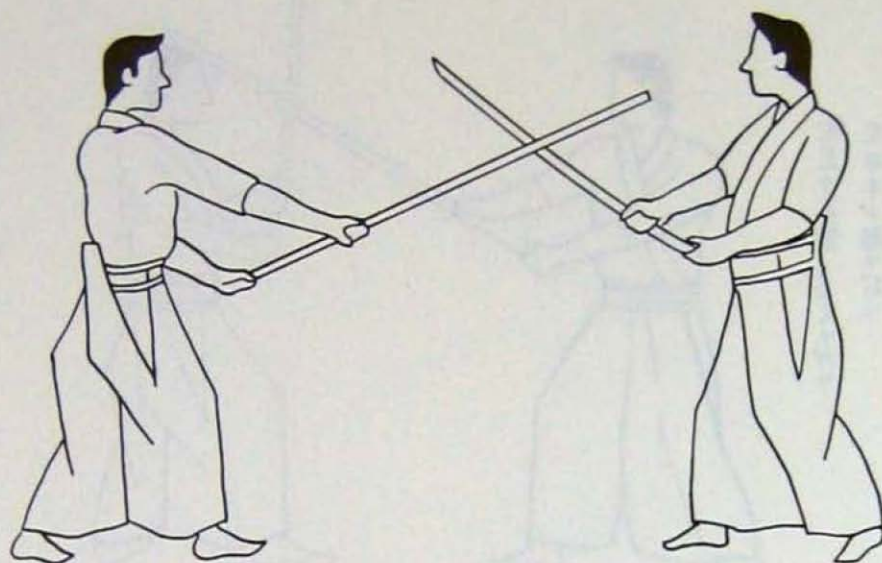
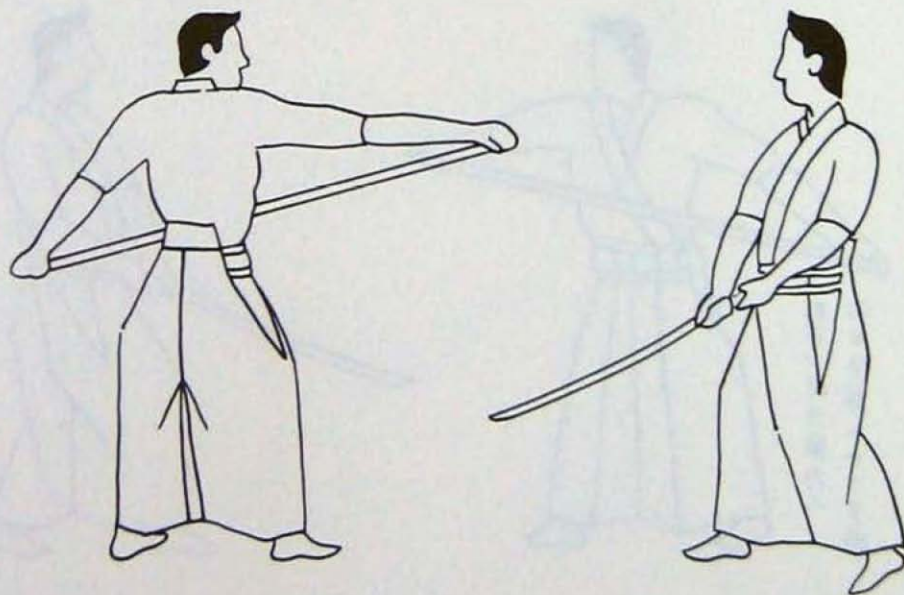
提杖デ相対シ
初メノ禮

構杖トナリ
正眼ニ構ヘル

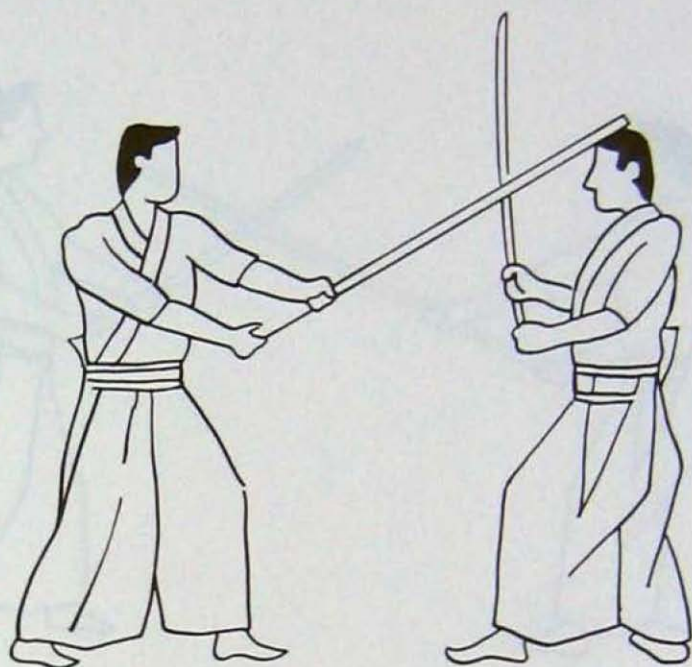
正面打込

左右斜打込

突

直突

本手打

正眼横カラ

左手デ杖ヲ後方ニ引キ手一杯ト
ナツタ時

左足ヲ一歩踏ミコミナガラ
左本手デ面ヲ打ツ

右手デ杖ヲ後方ニ
引キ手一杯トナッタ時

右足ヲ踏ミコミ右本手デ面ヲ打チ

眉間目掛ケテ突ク

逆手打

引落打

捻腰突（一名返突）

逆手突

繰附

繰放

體當

小手ヲ掬上ゲテ

刀ヲ摺リ上ケ

ソノマヽ両手デ急所ヲ當テ
突キ放ス

突外打

左手ヲ放シテ握リカヘ
上段ニトッテ

刀ヲ強ク打拂ヒ

胴拂打

手ヲカヘ　右本手打ニ
太刀ヲ打拂ヒ

突ニ攻メル

體外打